

**【抜粋】**

平成22年度

# 育成牧場の概況調査報告書

平成23年3月

社団法人 競走馬育成協会

## 「育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業」について (育成牧場の概況調査)

この調査は、育成環境の改善、育成技術の向上及び育成経営の強化に資することを目的とし、平成10年より日本中央競馬会から委託を受け「育成経営の実態及びその改善等に関する基礎的な各種調査」を計画的に実施しています。

本年度の調査については3巡目の調査で、平成 22年度は平成20年度の調査項目を見直して実施しました。

なお、この調査は、平成 22年度をもつて終了することとなりました。この間、会員の皆様方からのご協力をいただきましたアンケート回答には、大変感謝しております。

## 目 次

1. 平成22年度 基礎調査について	3
2. 概況	4
3. 創業年次	8
4. 経営形態	9
5. 経営主	10
6. 飼養頭数	11
7. 馬房稼働率	16
8. 育成調教用施設(走路・運動場)の設置状況	17
9. 育成調教用施設・機械の普及率等	18
(1) 施設・機械の普及率	18
(2) 施設・機械の所有状況	19
(3) 共同施設の利用状況	20
10. 従業員	21
11. 騎乗者	26
12. 調教業務	29
(1) セリ馴致	29
(2) 騎乗馴致	29
(3) ピンフッキング用の仕入れ	30
(4) トレーニングセール上場馬の調教	30
(5) トレーニング目標	31
13. 預託料金	33

# 1. 平成22年度 基礎調査について

(1) 調査対象牧場 180牧場  
 社団法人競走馬育成協会の全会員に対して、アンケート調査を行った(補完調査として、電話等にて聴き取り調査を実施)。

(2) 回答牧場数 120牧場

地域	対象牧場	回答牧場	回収率(%)
北海道	94	69	73.4
東北	11	6	54.5
関東	35	18	52.9
関西	34	14	63.6
九州	19	13	68.4
計	180	120	66.7

馬房数	1~29	30~59	60~89	90~	計	集計除外牧場数
北海道	10	23	16	20	69	0
東北	1	2	1	2	6	0
関東	4	6	3	4	17	1
関西	0	5	5	4	14	0
九州	3	9	1	0	13	0
計	18	45	26	30	119	1

注. 1牧場は、馬房数無記入等のため集計から除外した。

(3) 調査実施期間 平成22年4月～10月

注. なお地域区分は、次のとおりである。

地域	市町村名
北海道	えりも町
	様似町
	浦河町
	新ひだか町
	新冠町
	日高町
	平取町
	むかわ町
	安平町
	千歳市
洞爺湖町	

地域	府県名
東北	青森県
	岩手県
	宮城県
	福島県
関東	栃木県
	茨城県
	千葉県
	神奈川県
関西	愛知県
	三重県
	石川県
	京都府
	滋賀県
九州	福岡県
	大分県
	宮崎県
	鹿児島県

## 2. 概況

### (創業年次)

- ① 「第1次競馬ブーム期」(1965年～1973年)に21牧場、「第2次競馬ブーム期」(1986年～1991年)に24牧場と多くの牧場が設立された。
- ② また、バブル景気(第2次競馬ブーム期)崩壊後の不況にもかかわらず育成の重要性の認識から育成牧場の設立が続き、40牧場に達する。

### (経営形態)

- ① 有限会社60.8%、株式会社14.2%と会社組織が3/4を占める。
- ② 個人経営は、個人経営は、概ね1/5強を占める。

### (経営主)

- ① 経営主の年代は、30歳代11%、40歳代15%、50歳代32%、60歳以上42%となっている。
- ② 後継者の有無は、「有り」49%、「未定」42%で、「無し」9%と少数であった。
- ③ 後継者の有無は、北海道・都府県の地域差はほとんど無かった。

### (飼養頭数)

- ① 総飼養頭数は、育成馬6,855頭(64.1%)、競走馬1,552頭(14.5%)、繁殖馬1,831頭(17.1%)、その他・乗馬461頭(4.3%)が飼養されていた。
- ② 1牧場当たり育成馬57.6頭(育成馬6,855頭/119牧場)、競走馬13.0頭(競走馬1,552頭/119牧場)が飼養されていた。
- ③ 地域別にみると、北海道地域は育成馬5,900頭(1牧場当たり85.5頭)、競走馬293頭(1牧場当たり4.2頭)であった。
- ④ 東北地域は育成馬180頭(1牧場当たり30.0頭)、競走馬68頭(1牧場当たり11.3頭)であった。
- ⑤ 関東地域は育成馬314頭(1牧場当たり18.5頭)、競走馬399頭(1牧場当たり23.5頭)であった。
- ⑥ 関西地域は育成馬224頭(1牧場当たり16.0頭)、競走馬700頭(1牧場当たり50.0頭)であった。
- ⑦ 九州地域は育成馬237頭(1牧場当たり18.2頭)、競走馬92頭(1牧場当たり7.1頭)であった。
- ⑧ 育成馬の中央競馬・地方競馬向け飼養頭数は、中央競馬向け頭数4,318頭(63.0%)、地方競馬向け頭数438頭(6.4%)、所属不明頭数2,099頭(30.6%)であった。
- ⑨ 競走馬の中央競馬・地方競馬所属飼養頭数は、中央競馬所属頭数1,357頭(87.4%)、地方競馬所属頭数160頭(10.3%)、所属不明頭数35頭(2.3%)であった。

### (馬房稼働率)

- ① 1牧場当たりの平均馬房数は、83馬房(9,910馬房/119牧場)であった。
- ② 馬房稼働率は、全国平均で66.7%であった。
- ③ 地域別の馬房稼働率は、関東、関西、北海道、九州、東北の順であった。
- ④ 馬房数別では、「1～29頭」規模層及び「60～89頭」規模層の稼働率が相対的に高かった。

### (育成調教用施設(走路))

- ① 主要走路の設置率は、次のとおりである。

直線走路	15牧場(12.5%)	屋内走路	21牧場(17.5%)
円形走路	98牧場(81.7%)	屋内坂路	12牧場(10.0%)
屋外坂路	50牧場(41.7%)	屋内馬場	33牧場(27.5%)
- ② 円形走路は、北海道地域に距離の長いものが多い。
- ③ 坂路は、「500～1,000mの距離」が最も多い。

## (育成調教用施設・機械)

### (1) 施設・機械の普及率

- ① 育成調教用施設・機械の普及率は、次に示すとおりであった。

ウオーキングマシーン	97牧場(80.8%)、310台
トレッドミル	9牧場(7.5%)、12台
発馬機	94牧場(78.3%)、125台
- ② 育成調教用機械の普及率は、次に示すとおりであった。
  - ・約80%以上の高い普及率の機械は、トラクター、ダンプトラック、ハローであった。

トラクター	109牧場(90.8%)、316台
ダンプトラック	89牧場(74.2%)、231台
ハロー	96牧場(80.0%)、150台
  - ・馬運車は、76牧場(63.3%)、散水車は、40牧場(33.3%)に普及していた。

### (2) 施設・機械の所有状況

- ① 全て自己所有している牧場は、全国で約3/4(73.3%)を占めている。
- ② 全て賃借している牧場は、全国で8牧場(6.7%)であった。

### (3) 共同施設の利用状況

- ① 共同施設を利用している牧場は30牧場で、うちJRA日高総合育成施設(BTC)利用牧場は、北海道地域の14牧場であり、全体の46.7%である。
- ② 関西地域では、共同施設を利用している牧場はなかった。

## (従業員)

### (1~2) 従業員数規模別牧場数及び地域別

- ① 育成牧場全体(116牧場回答)の従業員数は2,356人(116牧場)、1牧場平均20.3人である。
- ② 地域別1牧場平均従業員数は、北海道地域の牧場の23.6人が最も多い。
- ③ 外国人従業員は、全体で80人であった。
- ④ 1騎乗者取扱平均頭数は、6.5頭『7,499頭「6.飼養頭数[育成馬(1~3歳馬)+競走馬]」/1,151人』であった。
- ⑤ 従業員数の規模別牧場数は、「5人~10人未満規模」の牧場が最も多く32牧場(27.6%)である。

### (3-①②) 採用した騎乗者及びきゅう務作業者の経歴

- ① 1牧場当たりの採用人数(1年間)は、全国平均で2.9人であった。
- ② 採用経歴では、「育成牧場等経験者」が最も多く65名(32.2%)、次が「馬術経験者」の42名(20.8%)の採用であった。
- ③ 「外国人」の採用は、全体で13名であった。そのなかで北海道が11名(84.6%)を占めている。
- ④ 「60~89馬房規模」の牧場で35名の採用、そのなかで「育成牧場等経験者」が最も多い16名(45.7%)の採用であった。  
また、「90馬房以上規模」の牧場でも、「育成牧場等経験者」の採用が38名(32.5%)と多い。
- ⑤ 一方、「外国人」の採用は、「90馬房以上規模」の牧場の12名(92.3%)と多かった。

### (3-③) 養成機関別卒業生の採用

- ① 軽種馬育成調教センター卒業生採用は、養成機関別卒業生全体で32名のうち北海道地域の7名(21.9%)であり、日本軽種馬協会卒業生採用は3名(9.4%)であった。
- ② また、JRA競馬学校卒業生採用は関西地域の10名(31.2%)であった。

### (3-④)外国人の採用

- ① 外国人採用(1年間)は全体で6牧場13名であり、そのうち北海道地域が11名(84.6%)であった。
- ② 国籍は、人数的に、フィリピン、スリランカ、アイルランド、ニュージーランドの順になっている。

### (3-⑤⑥)従業員の求人告知・合同説明会

- ① 「参加」と意欲のある牧場は、全国で20牧場(17.4%)、そのうち、北海道地域が11牧場と多い。また、「都合による参加」の牧場は、概ね6割の68牧場であった。
- ② 「不参加」の牧場は、概ね1/4弱の27牧場であった。
- ③ 規模が大きくなるにつれ、「参加」「都合による参加」が増加する。

### (騎乗者)

#### (1)騎乗者数の充足度

- ① 1牧場当たりの不足人数は、全国平均で2.2人(58人/26回答牧場)であった。
- ② 「充足」を感じる牧場は、65牧場(56.0%)であった。
- ③ 全国の不足人数58名のうち、北海道地域が36名(62.1%)を占めている。
- ④ 規模が大きくなるにつれ、「不足している」傾向がある。

#### (2)騎乗技術者レベルの満足度

- ① 「満足」は、全国で67牧場(59.3%)、そのうち、北海道地域が34牧場と多い。
- ② 「非常に不満」と感じている牧場が、1牧場(北海道)あった。
- ③ 規模が大きくなるにつれ「不満」、「非常に不満」が増加する。

#### (3)騎乗者の経験年数

- ① 騎乗者経験年数は、「5年以上」経験者が全国平均で60.9%を占める。
- ② 規模が大きくなるにつれ、経験年数が少なくなる傾向がみられる。

### (調教業務)

#### (1)1歳せり馴致

- ① せり馴致を行っている牧場は、59牧場(49.2%)である。
- ② 特に、北海道地域では47牧場(79.7%)と多い。

#### (2)若馬の騎乗馴致

- ① 騎乗馴致を行っている牧場は、94牧場(78.3%)である。
- ② 特に、北海道地域では63牧場(67.0%)と多い。

#### (3)ピンフッキング用の仕入れ

- ① ピンフッキング用の仕入れを行っている牧場は、9牧場(7.5%)である。
- ② 特に、北海道地域では8牧場(88.9%)と多い。
- ③ ピンフッキング用の仕入れ頭数は、全体で29頭(1牧場当たり平均頭数:3.2頭)、そのうち市場で購買した頭数は17頭(58.6%)であった。

#### (4)トレーニングセールに上場する馬の調教

- ① トレーニングセールに上場する馬の調教を行っている牧場は、43牧場(35.8%)である。
- ② 特に、北海道地域では35牧場(81.4%)と多い。
- ③ トレーニングセールに上場する馬の調教頭数は、全体で29頭であり、1牧場当たり平均頭数は4.1頭であった。

## (5) トレーニング目標

### 1) 育成馬

- ① トレーニング目標は、「競走直前の仕上げまで」43.1%、「新馬調教仕上げまで」38.5%と高度の目標を設定している。
- ② 大規模になるほど高度の目標としており、90馬房以上層の牧場は65.5%が「競走直前の仕上げまで」行っている。

### 2) 競走馬

- ① トレーニング目標は、「競走直前の仕上げまで」43.5%、「やや強い調教(15-15/秒)」25.2%と高度の目標を設定している。
- ② 大規模になるほど高度の目標としており、90馬房以上層の牧場は61.3%(19/31牧場)が「競走直前の仕上げまで」行っている。
- ③ 「リハビリ休養馬が主体」とする牧場は、全体の7.0%(8/115牧場)に過ぎない。

## (預託料金)

### (1) 預託料金

- ① 「中央競馬向け」馬預託料は、育成馬(1歳セリ上場前)が148千円/月、育成馬(騎乗馴致前)が173千円/月、育成馬(騎乗馴致後)228千円/月でした。また、競走馬については、「休養のみ」が178千円/月、「騎乗調教」が243千円/月でした。
- ② 「地方競馬向け」馬については、「中央競馬向け」馬の約9割弱の水準でありました。
- ③ 牧場の規模別(馬房数別)にみると、大規模になれば預託料金が高くなる傾向がみられます。

### (2) その他料金

- ① 預託料金を預託者毎に変えずに、定額としている牧場の割合は55.8%であった。
- ② 預託料金以外に、経費として徴収している項目で、
  - ア、高い割合で徴収している項目は、  
削蹄料金(95.6%)、治療代(93.0%)、定期検診代(86.8%)
  - イ、低い割合の項目は、  
保険料(14.9%)、馬具(22.8%)であった。

### 3. 創業年次

(回答牧場:120牧場)

元号	明治	大正	昭和	平成	計
牧場数	1	1	63	55	120

うち設立年次の記入のあった牧場

(回答牧場:119牧場)

区分	1944年 以前	1945年～ 1960年	1961年～ 1970年	1971年～ 1980年	1981年～ 1990年	1991年～ 2000年	2001年～	計
牧場数	5	8	21	13	29	22	21	119

① 「第1次競馬ブーム期」(1965年～1973年)に21牧場、「第2次競馬ブーム期」(1986年～1991年)に24牧場と多くの牧場が設立された。

② また、バブル景気(第2次競馬ブーム期)崩壊後の不況にもかかわらず育成の重要性の認識から育成牧場の設立が続き、40牧場に達する。

年次	牧場数	備考
1930年代以前	5	
1940年代	2	
1950年代	5	
1960年(昭和35年)	1	
1961年(昭和36年)	1	
1962年(昭和37年)	1	
1963年(昭和38年)	1	
1964年(昭和39年)	3	
1965年(昭和40年)	6	第1次競馬ブーム期
1966年(昭和41年)	2	第1次競馬ブーム期
1967年(昭和42年)	4	第1次競馬ブーム期
1968年(昭和43年)		第1次競馬ブーム期
1969年(昭和44年)	3	第1次競馬ブーム期
1970年(昭和45年)		第1次競馬ブーム期
1971年(昭和46年)	3	第1次競馬ブーム期
1972年(昭和47年)	2	第1次競馬ブーム期
1973年(昭和48年)	1	第1次競馬ブーム期
1974年(昭和49年)	1	
1975年(昭和50年)	3	
1976年(昭和51年)		
1977年(昭和52年)	2	
1978年(昭和53年)	1	
1979年(昭和54年)		
1980年(昭和55年)		
1981年(昭和56年)	1	
1982年(昭和57年)	1	
1983年(昭和58年)	1	

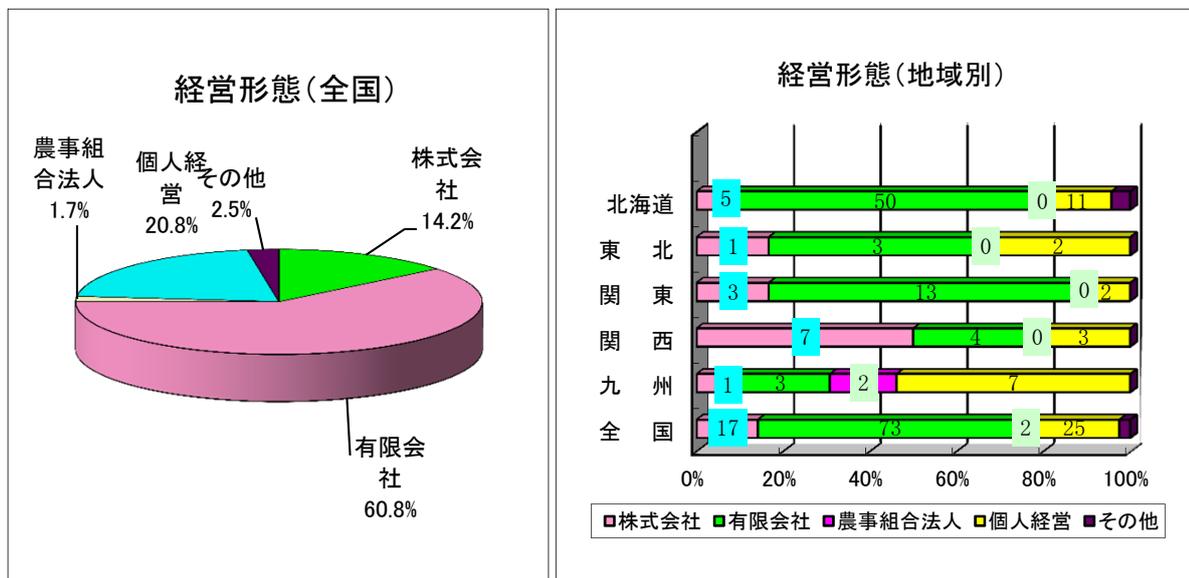
年次	牧場数	備考
1984年(昭和59年)	3	
1985年(昭和60年)	2	
1986年(昭和61年)	4	第2次競馬ブーム期
1987年(昭和62年)	2	第2次競馬ブーム期
1988年(昭和63年)	3	第2次競馬ブーム期
1989年(平成元年)	11	第2次競馬ブーム期
1990年(平成2年)	1	第2次競馬ブーム期
1991年(平成3年)	3	第2次競馬ブーム期
1992年(平成4年)	1	1992年～2010年 設立計40牧場
1993年(平成5年)	4	
1994年(平成6年)	2	
1995年(平成7年)	2	
1996年(平成8年)	4	
1997年(平成9年)	3	
1998年(平成10年)		
1999年(平成11年)	3	
2000年(平成12年)		
2001年(平成13年)	2	
2002年(平成14年)	3	
2003年(平成15年)	2	
2004年(平成16年)	3	
2005年(平成17年)	4	
2006年(平成18年)	2	
2007年(平成19年)		
2008年(平成20年)	2	
2009年(平成21年)		
2010年(平成22年)	3	

## 4. 経営形態

地 区	株式会社		農事組合法人	個人経営	その他	計
	株式会社	有限会社				
北海道	5	50	0	11	3	69
東 北	1	3	0	2	0	6
関 東	3	13	0	2	0	18
関 西	7	4	0	3	0	14
九 州	1	3	2	7	0	13
全 国	17	73	2	25	3	120
%	14.2%	60.8%	1.7%	20.8%	2.5%	100.0

注1)「北海道の有限会社」の欄のなかに、合資会社1を含む。

注2)「その他」の欄は、共同育成公社3である。



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

(まとめ)

1. 有限会社60.8%、株式会社14.2%と会社組織が3/4を占める。
2. 個人経営は、概ね1/5強を占める。

## 5. 経営主

- ① 経営主の年代は、30歳代11%、40歳代15%、50歳代32%、60歳以上42%となっている。
- ② 後継者の有無は、「有り」49%、「未定」42%で、「無し」9%と少数であった。
- ③ 後継者の有無は、北海道・都府県の地域差はほとんど無かった。

経営主の年代 (記入牧場120牧場)

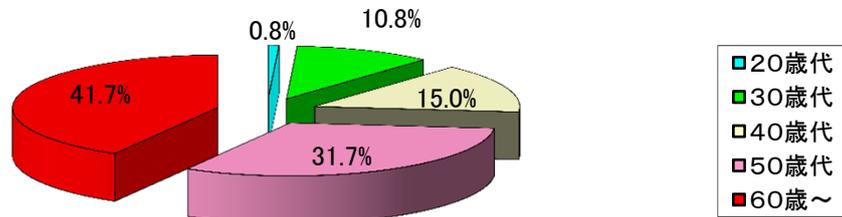
年代別	北海道	都府県	東北	関東	関西	九州	計	%
20歳代	0	1	1	0	0	0	1	0.8%
30歳代	12	1	0	0	1	0	13	10.8%
40歳代	10	8	0	2	4	2	18	15.0%
50歳代	20	18	1	8	4	5	38	31.7%
60歳～	27	23	4	8	5	6	50	41.7%
計	69	51	6	18	14	13	120	100.0%

後継者の有無(記入牧場119牧場)

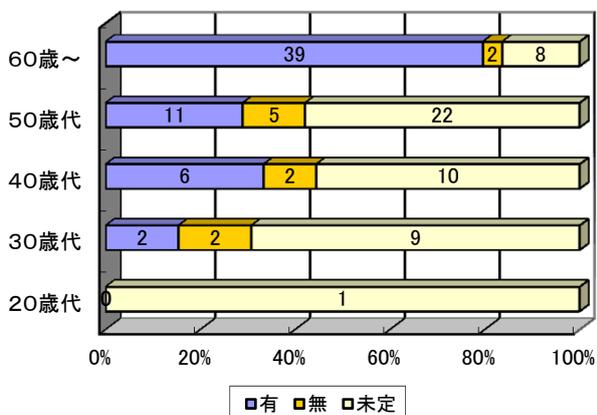
年代別	有	無	未定	計
20歳代	0	0	1	1
30歳代	2	2	9	13
40歳代	6	2	10	18
50歳代	11	5	22	38
60歳～	39	2	8	49
年代不明	0	0	0	0
計	58	11	50	119

地域別	有	無	未定	計
北海道	34	8	27	69
都府県	24	3	23	50
東北	3	0	3	6
関東	8	1	8	17
関西	5	1	8	14
九州	8	1	4	13
計	58	11	50	119

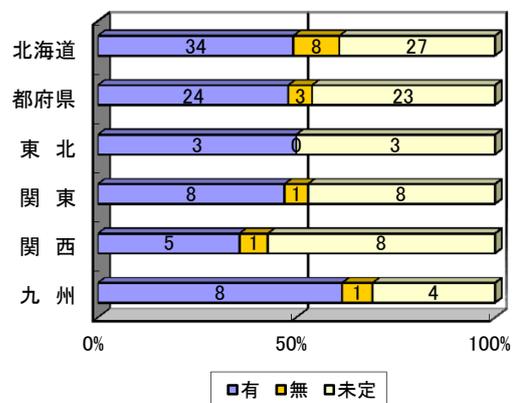
経営者の年代



後継者の有無(年代別)



後継者の有無(地域別)



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

## 6. 飼養頭数

地区	飼養頭数																			
	育成馬																			
	当歳馬				1歳馬				2歳馬				3歳馬				小計			
	中央競馬 向 け	地方競馬 向 け	不明	計	中央競馬 向 け	地方競馬 向 け	不明	計	中央競馬 向 け	地方競馬 向 け	不明	計	中央競馬 向 け	地方競馬 向 け	不明	計	中央競馬 向 け	地方競馬 向 け	不明	計
北海道	474	8	380	862	934	62	615	1,611	1,709	193	894	2,796	510	38	83	631	3,627	301	1,972	5,900
東北	2	3	9	14	2	1	6	9	47	6	50	103	8	0	46	54	59	10	111	180
関東	0	1	2	3	21	6	2	29	93	29	2	124	125	23	10	158	239	59	16	314
関西	0	0	0	0	0	0	0	0	99	2	0	101	123	0	0	123	222	2	0	224
九州	17	12	0	29	36	7	0	43	81	37	0	118	37	10	0	47	171	66	0	237
合計	493	24	391	908	993	76	623	1,692	2,029	267	946	3,242	803	71	139	1,013	4,318	438	2,099	6,855
%				8.5%				15.8%				30.3%				9.5%	40.4%	4.1%	19.6%	64.1%

地区	飼養頭数																	乗馬 その他	合計	回答牧場数
	競走馬												繁殖馬							
	調整・放牧馬				障害調教馬				小計				繁殖牝馬	種雄馬	計					
	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計								
北海道	252	25	16	293	0			0	252	25	16	293	1,772	23	1,795	79	8,067	69		
東北	47	3	14	64	4			4	51	3	14	68	14	1	15	2	265	6		
関東	299	95	5	399	0			0	299	95	5	399	5	0	5	316	1,034	17		
関西	682	11	0	693	7			7	689	11	0	700	0	0	0	61	985	14		
九州	66	26	0	92	0			0	66	26	0	92	16	0	16	3	348	13		
合計	1,346	160	35	1,541	11			11	1,357	160	35	1,552	1,807	24	1,831	461	10,699	119		
%	12.6%	1.5%	0.3%	14.4%	0.1%			0.1%	12.7%	1.5%	0.3%	14.5%	16.9%	0.2%	17.1%	4.3%	100.0%			

注1) 関東地域1牧場は、調査当時育成馬・競走馬の飼養がないため、回答がなかった牧場として処理した。

飼養頭数の内訳  
(預託馬)

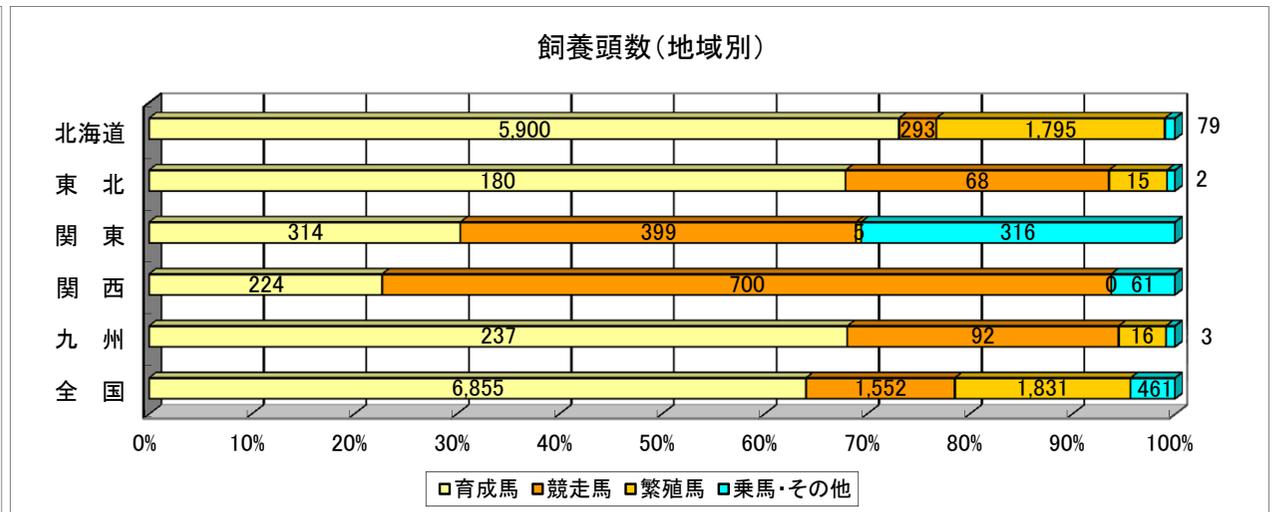
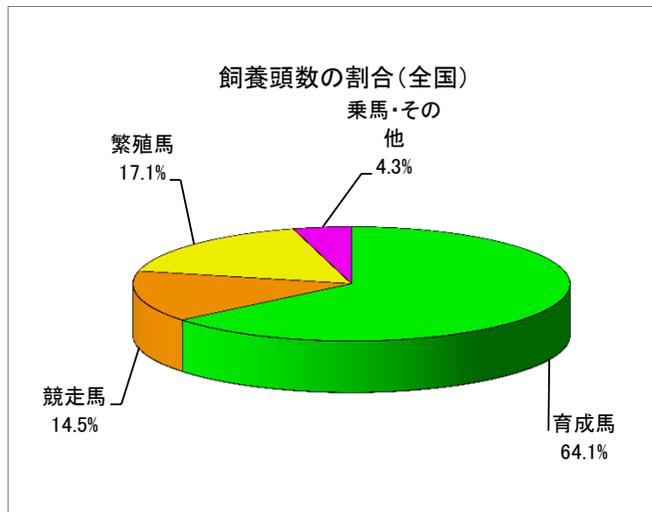
地区	うち 預託馬																			
	育成馬																			
	当歳馬				1歳馬				2歳馬				3歳馬				小計			
	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計
北海道	90	1	64	155	240	13	149	402	1,196	136	797	2,129	249	18	74	341	1,775	168	1,084	3,027
東北	2	3	0	5	2	1	0	3	44	4	50	98	8	0	46	54	56	8	96	160
関東	0	0	0	0	5	2	0	7	77	16	1	94	114	17	5	136	196	35	6	237
関西	0	0	0	0	0	0	0	0	86	2	0	88	122	0	0	122	208	2	0	210
九州	10	10	0	20	30	5	0	35	57	35	0	92	27	7	0	34	124	57	0	181
合計	102	14	64	180	277	21	149	447	1,460	193	848	2,501	520	42	125	687	2,359	270	1,186	3,815
%				3.3%				8.1%				45.2%				12.4%	42.6%	4.9%	21.4%	68.9%

地区	うち 預託馬																	乗馬 その他	合計	該当牧場数
	競走馬												繁殖馬							
	調整・放牧馬				障害調教馬				小計				繁殖牝馬	種雄馬	計					
	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計								
北海道	170	9	14	193	0	/	/	0	170	9	14	193	250	11	261	16	3,497	64		
東北	47	3	14	64	4	/	/	4	51	3	14	68	4	1	5	2	235	6		
関東	273	61	5	339	0	/	/	0	273	61	5	339	0	0	0	35	611	16		
関西	672	3	0	675	6	/	/	6	678	3	0	681	0	0	0	37	928	13		
九州	58	23	0	81	0	/	/	0	58	23	0	81	0	0	0	0	262	11		
合計	1,220	99	33	1,352	10	/	/	10	1,230	99	33	1,362	254	12	266	90	5,533	110		
%	22.0%	1.8%	0.6%	24.4%	0.2%			0.2%	22.2%	1.8%	0.6%	24.6%	4.6%	0.2%	4.8%	1.6%	100.0%			

飼養頭数の内訳  
(仔分け馬)

地区	うち 仔分け馬																			
	育成馬																			
	当歳馬				1歳馬				2歳馬				3歳馬				小計			
	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計	中央競馬 向	地方競馬 向	不明	計
北海道	3	0	1	4	6	0	2	8	13	0	2	15	14	0	0	14	36	0	5	41
東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
関東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関西	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	0	1	4	6	0	2	8	15	1	2	18	14	0	0	14	38	1	5	44
%				7.1%				14.3%				32.1%				25.0%	67.9%	1.8%	8.9%	78.6%

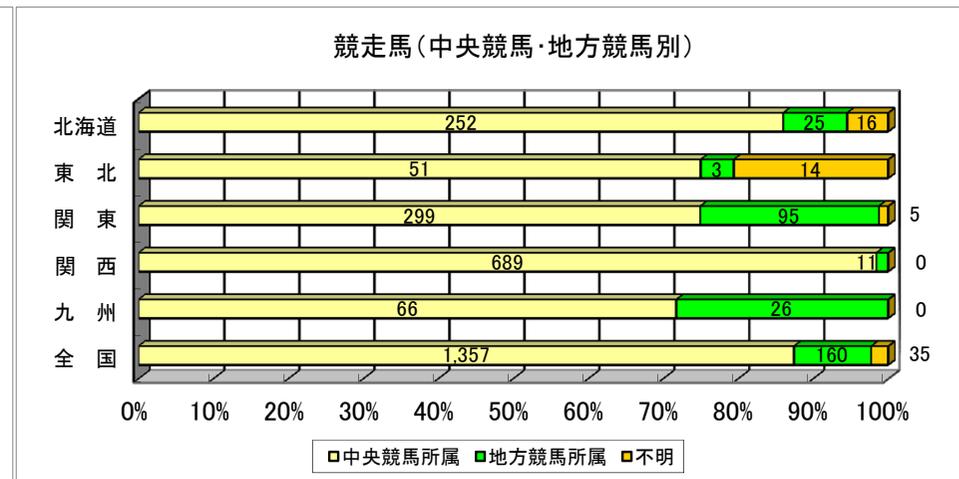
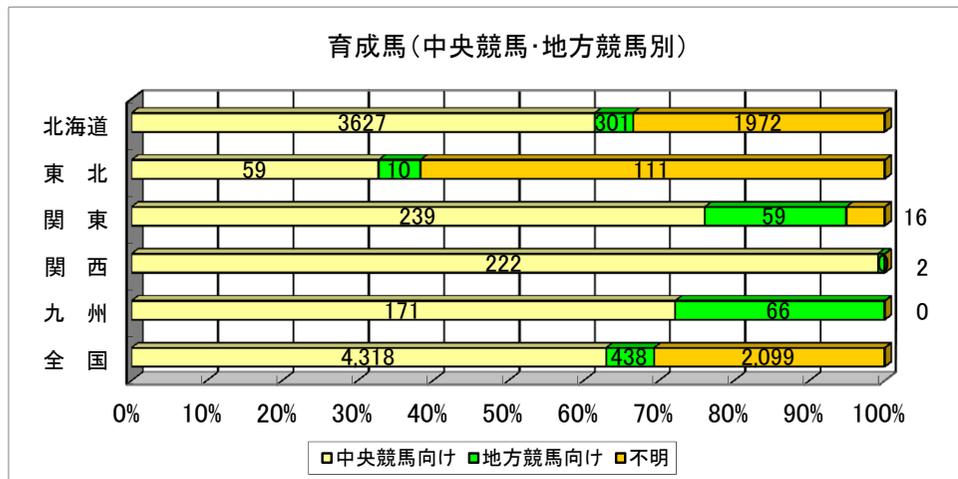
地区	うち 仔分け馬																	該当牧場数
	競走馬												繁殖馬			乗馬 その他	合計	
	調整・放牧馬				障害調教馬				小計				繁殖牝馬	種雄馬	計			
	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計	中央競馬 所 属	地方競馬 所 属	不明	計						
北海道	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	12	0	12	0	53	6
東北	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
関東	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関西	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
九州	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	12	0	12	0	56	8
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	21.4%	0.0%	100.0%	



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての頭数である。

(まとめ)

1. 総飼養頭数は、育成馬6,855頭(64.1%)、競走馬1,552頭(14.5%)、繁殖馬1,831頭(17.1%)、その他・乗馬461頭(4.3%)が飼養されていた。
2. 1牧場当たり育成馬57.6頭(育成馬6,855頭/119牧場)、競走馬13.0頭(競走馬1,552頭/119牧場)が飼養されていた。
3. 地域別にみると、北海道地域は育成馬5,900頭(1牧場当たり85.5頭)、競走馬293頭(1牧場当たり4.2頭)であった。
4. 東北地域は育成馬180頭(1牧場当たり30.0頭)、競走馬68頭(1牧場当たり11.3頭)であった。
5. 関東地域は育成馬314頭(1牧場当たり18.5頭)、競走馬399頭(1牧場当たり23.5頭)であった。
6. 関西地域は育成馬224頭(1牧場当たり16.0頭)、競走馬700頭(1牧場当たり50.0頭)であった。
7. 九州地域は育成馬237頭(1牧場当たり18.2頭)、競走馬92頭(1牧場当たり7.1頭)であった。



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての頭数である。

(まとめ)

8. 育成馬の中央競馬・地方競馬向け飼養頭数は、中央競馬向け頭数4,318頭(63.0%)、地方競馬向け頭数438頭(6.4%)、所属不明頭数2,099頭(30.6%)であった。
9. 競走馬の中央競馬・地方競馬所属飼養頭数は、中央競馬所属頭数1,357頭(87.4%)、地方競馬所属頭数160頭(10.3%)、所属不明頭数35頭(2.3%)であった。
10. 地域別にみると、北海道地域は育成馬の中央競馬向け頭数3,627頭(61.5%)、地方競馬向け頭数301頭(5.1%)、所属不明頭数1,972頭(33.4%)であり、競走馬の中央競馬所属頭数252頭(86.0%)、地方競馬所属頭数25頭(8.5%)、所属不明頭数16頭(5.5%)であった。
11. 東北地域は育成馬の中央競馬向け頭数59頭(32.8%)、地方競馬向け頭数10頭(5.5%)、所属不明頭数111頭(61.7%)であり、競走馬の中央競馬所属頭数51頭(75.0%)、地方競馬所属頭数3頭(4.4%)、所属不明頭数14頭(20.6%)であった。
12. 関東地域は育成馬の中央競馬向け頭数239頭(76.1%)、地方競馬向け頭数59頭(18.8%)、所属不明頭数16頭(5.1%)であり、競走馬の中央競馬所属頭数299頭(74.9%)、地方競馬所属頭数95頭(23.8%)、所属不明頭数5頭(1.3%)であった。
13. 関西地域は育成馬の中央競馬向け頭数222頭(99.1%)、地方競馬向け頭数2頭(0.9%)、所属不明頭数0頭(-%)であり、競走馬の中央競馬所属頭数689頭(98.4%)、地方競馬所属頭数11頭(1.6%)、所属不明頭数0頭(-%)であった。
14. 九州地域は育成馬の中央競馬向け頭数171頭(72.2%)、地方競馬向け頭数66頭(27.8%)、所属不明頭数0頭(-%)であり、競走馬の中央競馬所属頭数66頭(71.7%)、地方競馬所属頭数26頭(28.3%)、所属不明頭数0頭(-%)であった。

## 7. 馬房稼働率

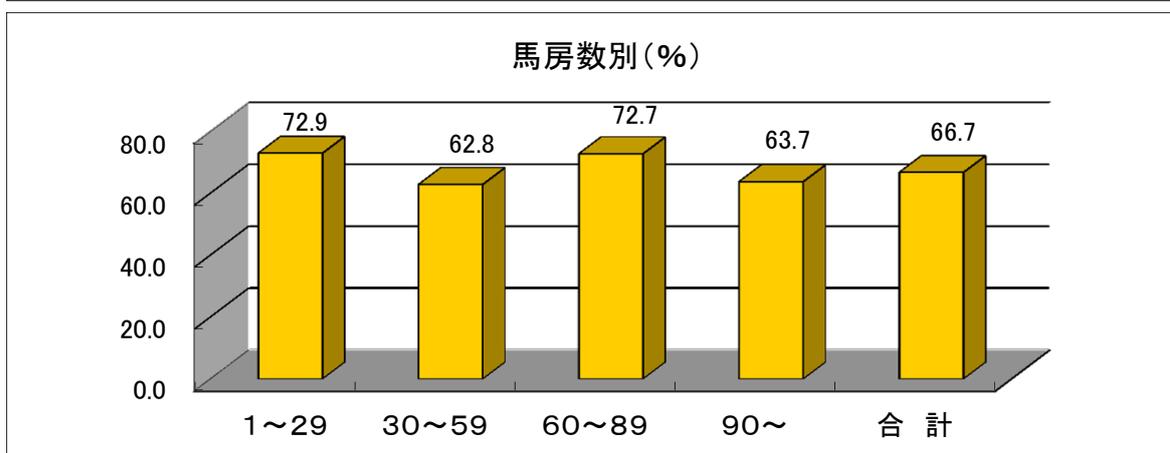
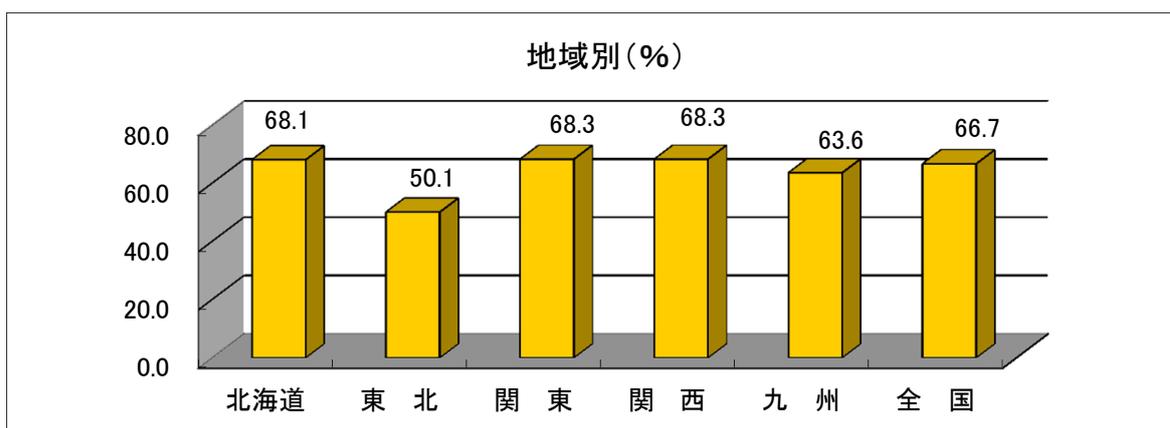
### (1) 馬房稼働率(地域別)

地 区	回 答 牧場数	馬房数	飼養頭数(頭)			馬房稼働率
			うち育成馬	うち競走馬		
北海道	69	6,769	5,331	5,038	293	68.1%
東 北	6	424	234	166	68	50.1%
関 東	17	977	710	311	399	68.3%
関 西	14	1,244	924	224	700	68.3%
九 州	13	496	300	208	92	63.6%
全 国	119	9,910	7,499	5,947	1,552	66.7%

### (2) 馬房稼働率(馬房数別)

規 模 (馬房別)	回 答 牧場数	馬房数	飼養頭数(頭)			馬房稼働率
			うち育成馬	うち競走馬		
1～29	18	370	304	267	37	72.9%
30～59	45	1,855	1,205	914	291	62.8%
60～89	26	1,817	1,406	1,049	357	72.7%
90～	30	5,868	4,584	3,717	867	63.7%
合 計	119	9,910	7,499	5,947	1,552	66.7%

- 注1. 育成馬頭数は、1～3歳育成馬頭数とした。  
 注2. 競走馬頭数は、「調整・放牧馬」頭数+「障害調教馬」頭数とした。  
 注3. 馬房稼働率は各牧場毎に計算し、「馬房数<飼養頭数」の場合は100%に修正して計算した。



### (まとめ)

- 1 牧場当たりの平均馬房数は、83馬房(9,910馬房/119牧場)であった。
- 2 馬房稼働率は、全国平均で66.7%であった。
- 3 地域別の馬房稼働率は、関東、関西、北海道、九州、東北の順であった。
- 4 馬房数別では、「1～29頭」規模層及び「60～89頭」規模層の稼働率が相対的に高かった。

## 8. 育成調教用施設(走路・運動場)の設置状況

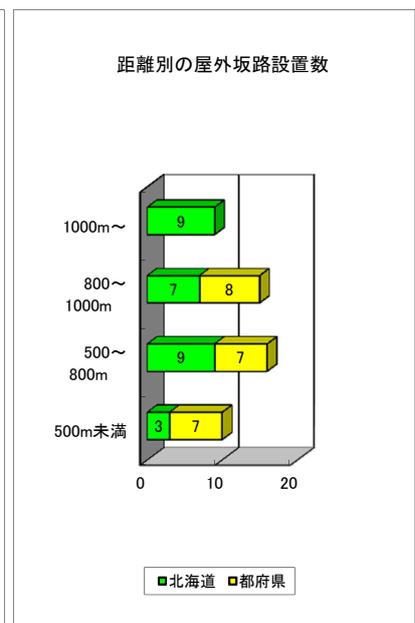
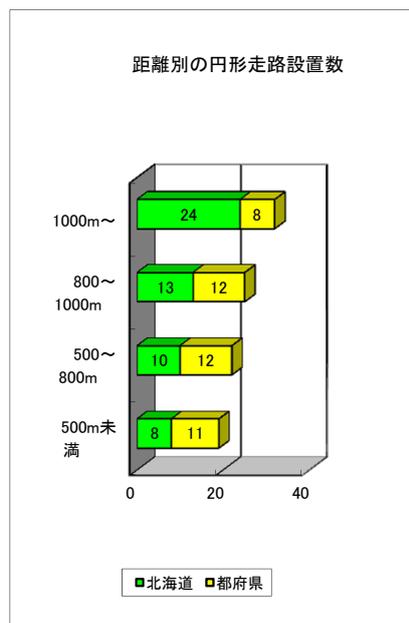
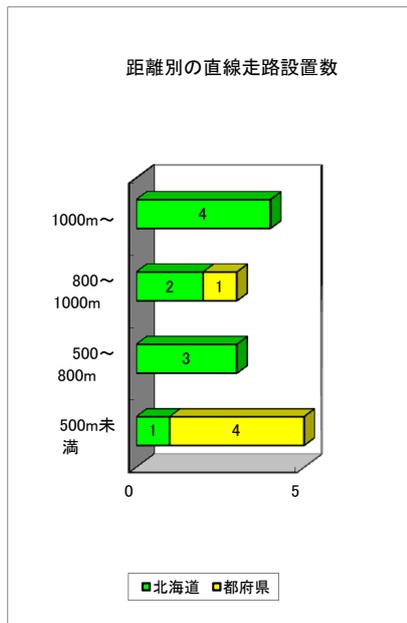
- ① 主要走路の設置率は、下表のとおりである。  
 直線走路 15牧場(12.5%) 屋内走路 21牧場(17.5%)  
 円形走路 98牧場(81.7%) 屋内坂路 12牧場(10.0%)  
 屋外坂路 50牧場(41.7%) 屋内馬場 33牧場(27.5%)
- ② 円形走路は、北海道地域に距離の長いものが多い。  
 ③ 坂路は、「500～1,000mの距離」が最も多い。

区分	直線走路	円形走路 (トラック)	屋外坂路	屋内走路 (トラック)	屋内坂路	海岸走路	運動・馴致施設			
							角馬場	丸馬場 (調馬用)	屋内馬場 (角馬場)	屋外馬場
設置牧場数	15	98	50	21	12	3	46	88	33	9
設置率(%)	12.5%	81.7%	41.7%	17.5%	10.0%	2.5%	38.3%	73.3%	27.5%	7.5%
設置施設数	16	127	50	23	14	3	169	224	35	9

施設数別牧場数										
1 施設	14	71	50	21	12	3	34	42	33	9
2 施設	1	25		1	1		3	26	1	
3 施設		2					2	11		
4 施設								4		
5 施設								2		
6 施設								1		
7 施設							1			
8 施設 ~							5	2		

(地域別内訳)	直線走路	円形走路	屋外坂路	屋内走路	屋内坂路	海岸走路	角馬場	丸馬場	屋内馬場	屋外馬場
<b>北海道</b>										
設置牧場数	10	55	28	19	11		15	51	25	8
距離別 300m未満	1	4		6						
300～500m未満	1	4	3	3	2					
500～800m未満	3	10	9	6	4					
800～1000m未満	2	13	7	3	2					
1000m～	4	24	9	1	3					
周囲コース(300m)										
<b>都府県</b>										
設置牧場数	5	43	22	2	1	3	31	37	8	1
距離別 300m未満	1	3	3	1						
300～500m未満	3	8	4							
500～800m未満		12	7	1	1					
800～1000m未満	1	12	8							
1000m～		8				3				

- 注1 集計牧場数は、120牧場  
 注2 設置率は、120牧場に対する割合である。  
 注3 複数の施設を所有する牧場は、「距離の長いもの」で集計した。



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

## 9. 育成調教用施設・機械の普及率及び所有状況等

### (1) 施設・機械の普及率

- ① 育成調教用施設・機械の普及率は、下表に示すとおりであった。
- |           |                  |
|-----------|------------------|
| ウォーキングマシン | 97牧場(80.8%)、310台 |
| トレッドミル    | 9牧場(7.5%)、12台    |
| 発馬機       | 94牧場(78.3%)、125台 |
- ② 育成調教用機械の普及率は、下表に示すとおりであった。
- ・約80%以上の高い普及率の機械は、トラクター、ダンプトラック、ハローであった。
- |         |                   |
|---------|-------------------|
| トラクター   | 109牧場(90.8%)、316台 |
| ダンプトラック | 89牧場(74.2%)、231台  |
| ハロー     | 96牧場(80.0%)、150台  |
- ・馬運車は、76牧場(63.3%)、散水車は、40牧場(33.3%)に普及していた。

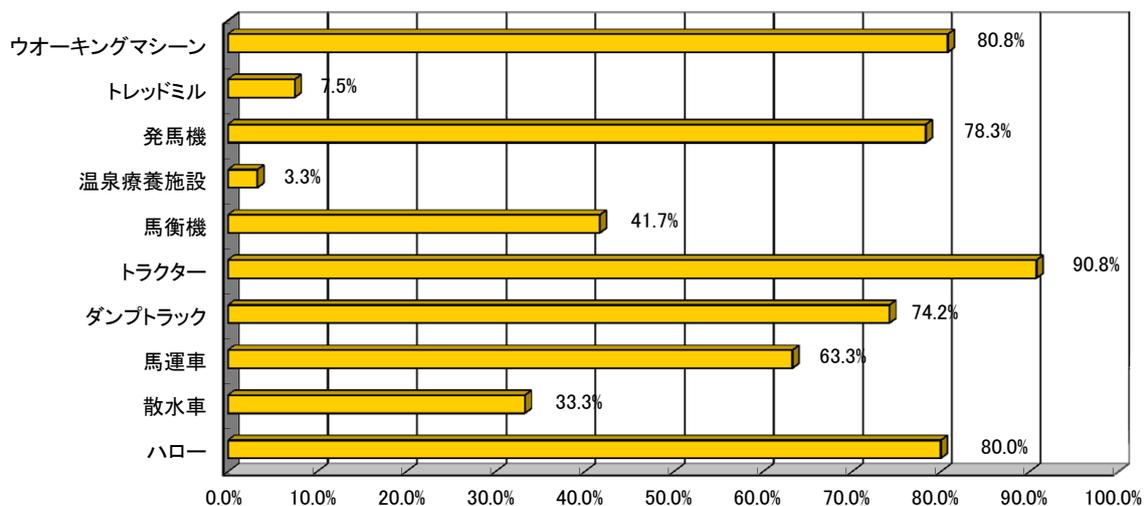
区分	ウォーキングマシン	トレッドミル	発馬機	温泉療養施設	馬衡機	トラクター	ダンプトラック	馬運車	散水車	ハロー
普及牧場数	97	9	94	4	50	109	89	76	40	96
普及率(%)	80.8%	7.5%	78.3%	3.3%	41.7%	90.8%	74.2%	63.3%	33.3%	80.0%
普及台数	310	12	125	4	106	316	231	125	51	150

#### 台数別牧場数

台数	ウォーキングマシン	トレッドミル	発馬機	温泉療養施設	馬衡機	トラクター	ダンプトラック	馬運車	散水車	ハロー
1台	36	6	68	4	37	35	42	51	32	58
2台	29	3	22		5	30	21	14	5	29
3台	10		3		2	17	12	6	3	6
4台	9		1		2	16	5	3		2
5台	3				1	3	5			
6台	5				1	3		1		
7台						1	1			
8台	2				1					1
9台							1			
10台以上	3				1	4	2	1		

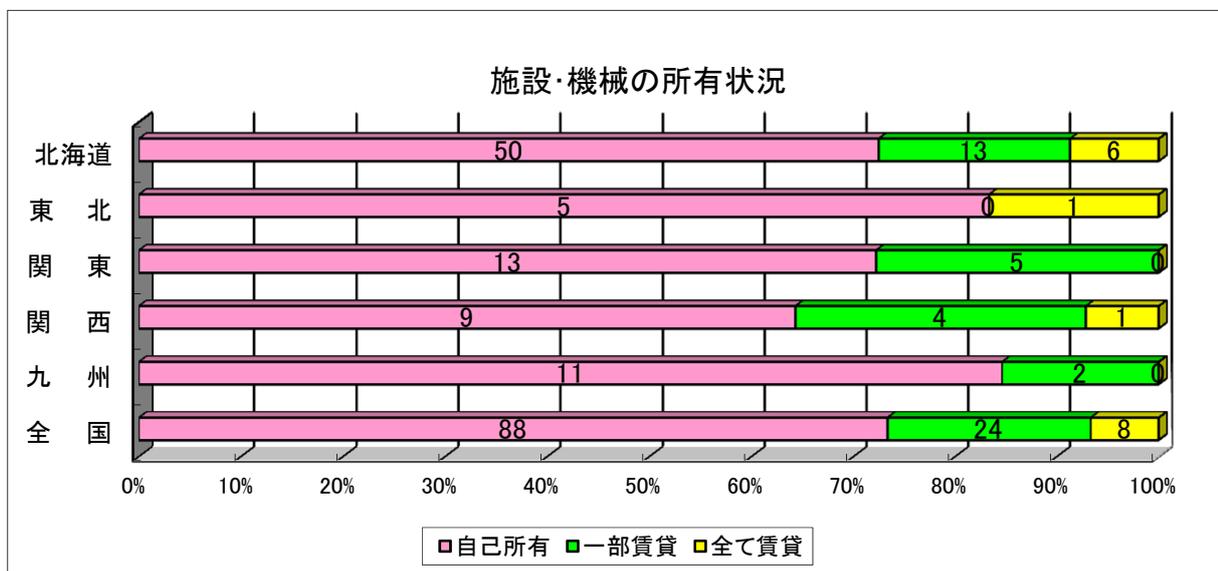
- 注1. 回答牧場は、120牧場である。  
 注2. 普及率は、回答120牧場に対する比率である。  
 注3. トレッドミルうち1台は、ウォータートレッドミルであった。

育成調教用施設・機械の普及率



## (2) 施設・機械の所有状況

地 区	全 て 自己所有	一部賃貸	全て賃貸	回答牧場数
北海道	50	13	6	69
東 北	5	0	1	6
関 東	13	5	0	18
関 西	9	4	1	14
九 州	11	2	0	13
全 国	88	24	8	120
%	73.3%	20.0%	6.7%	100.0%



(注) 棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

(まとめ)

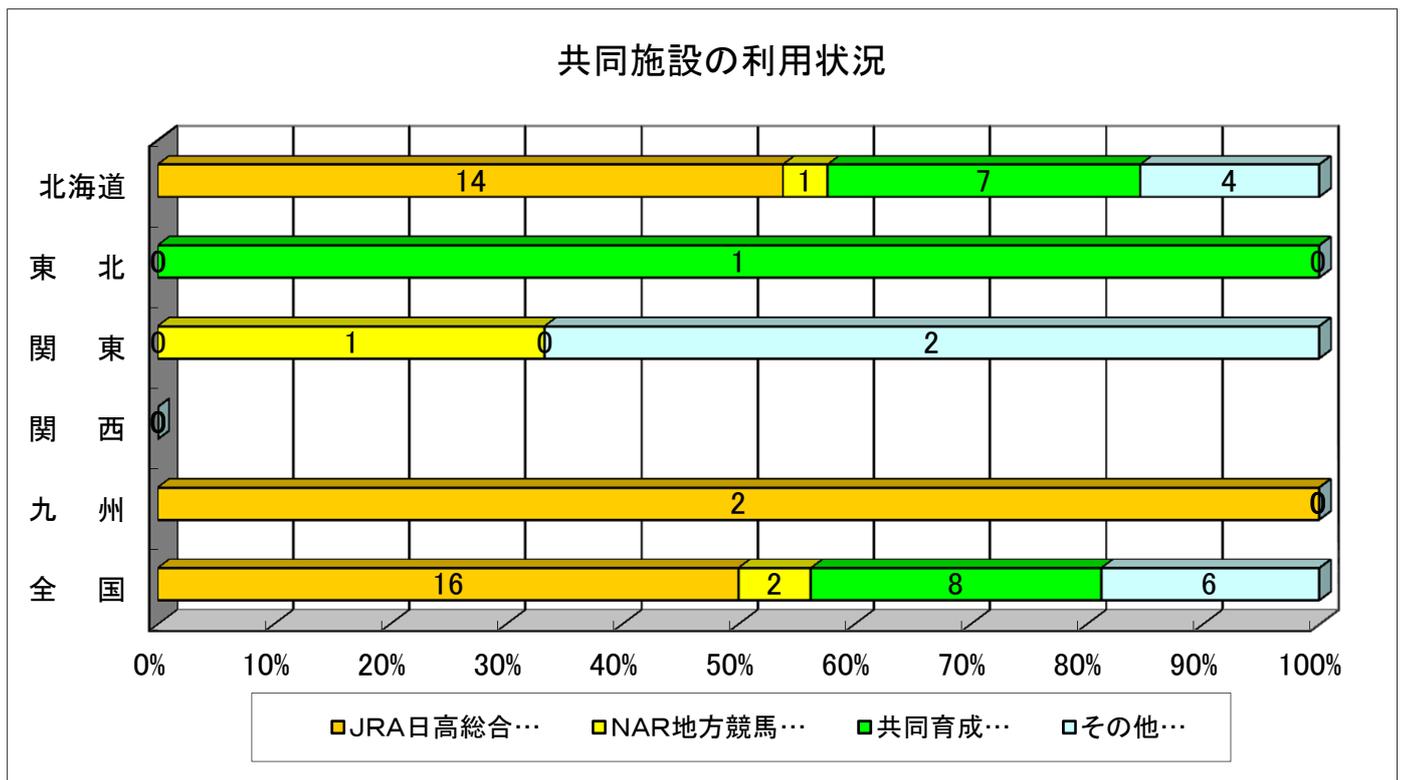
1. 全て自己所有している牧場は、全国で約3/4(73.3%)を占めている。
2. 全て賃貸している牧場は、全国で8牧場(6.7%)であった。

### (3) 共同施設の利用状況

地 区	JRA日高総合 育成施設等	NAR地方競馬 教養センター施設	共同育成 公社	その他 (民間施設)	合計	回 答 牧場数
北海道	14	1	7	4	26	24
東 北	0	0	1	0	1	1
関 東	0	1	0	2	3	3
関 西	0	0	0	0	0	0
九 州	2	0	0	0	2	2
全 国	16	2	8	6	32	30
%	53.3%	6.7%	26.7%	20.0%		100.0%

注1)複数回答なので、回答牧場数とは一致しない。

注2)九州地域のJRA日高総合育成施設等の欄の2牧場はJRA宮崎育成牧場である。



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

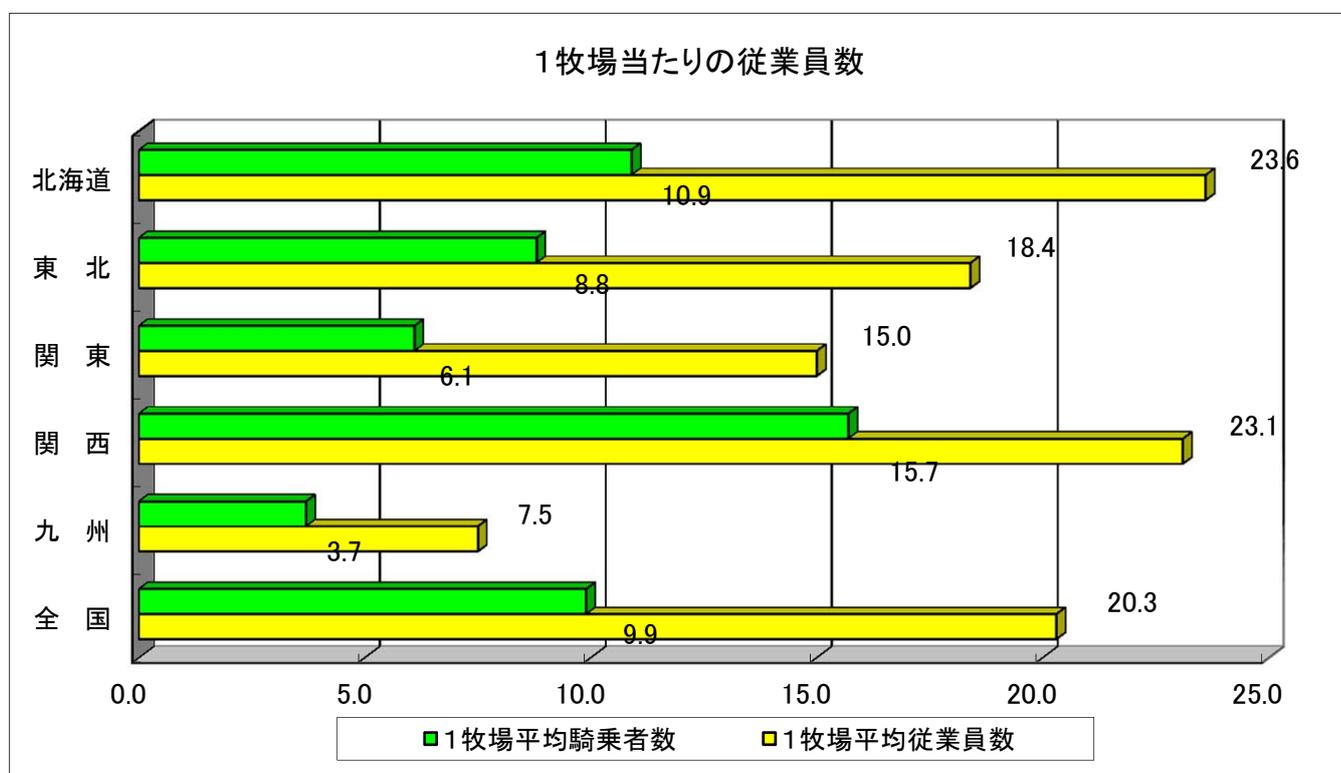
(まとめ)

- 共同施設を利用している牧場は30牧場で、うちJRA日高総合育成施設(BTC)利用牧場は、北海道地域の14牧場であり、全体の46.7%である。
- 関西地域では、共同施設を利用している牧場はなかった。

## 10. 従業員

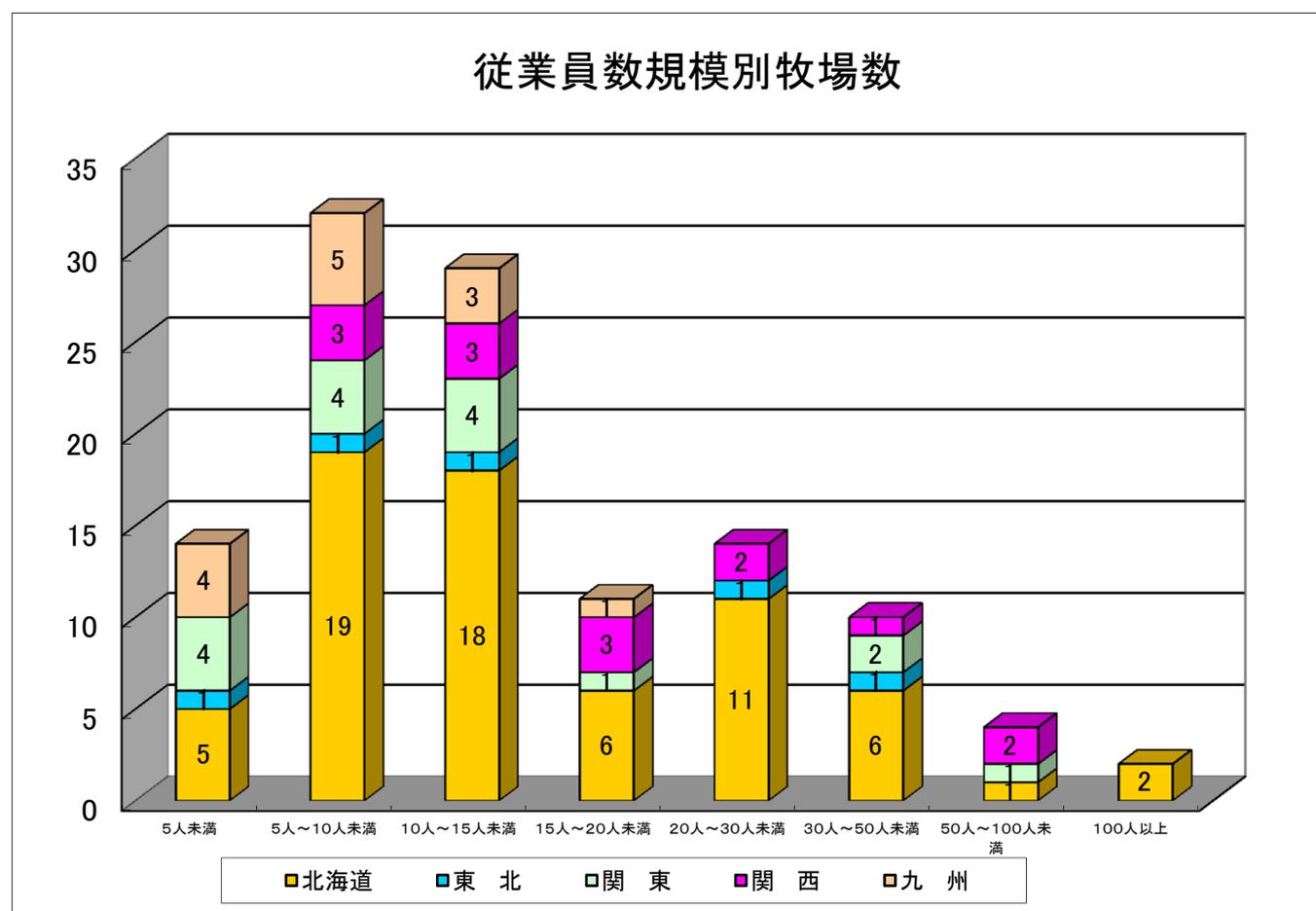
### (1) 地域別従業員数

区 分	全 国	北海道	東 北	関 東	関 西	九 州
全体数	2,356	1,603	92	240	323	98
1 牧場平均従業員数	20.3	23.6	18.4	15.0	23.1	7.5
外国人従業員 計	80	57		11	9	3
事務員	177	111	5	23	26	12
うち 外国人	0					
調教管理者	173	90	12	43	20	8
うち 外国人	12	3		9		
騎乗者	1,151	741	44	98	220	48
うち 外国人	65	52		1	9	3
1 牧場平均騎乗者数	9.9	10.9	8.8	6.1	15.7	3.7
厩務作業員	855	661	31	76	57	30
うち 外国人	3	2		1		
回答牧場数	116	68	5	16	14	13



## (2) 従業員数規模別牧場数

区 分	全国	北海道	東 北	関 東	関 西	九 州
5人未満	14	5	1	4		4
5人～10人未満	32	19	1	4	3	5
10人～15人未満	29	18	1	4	3	3
15人～20人未満	11	6		1	3	1
20人～30人未満	14	11	1		2	
30人～50人未満	10	6	1	2	1	
50人～100人未満	4	1		1	2	
100人以上	2	2				
記入なし	4	1	1	2		
合 計	120	69	6	18	14	13



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

(まとめ)

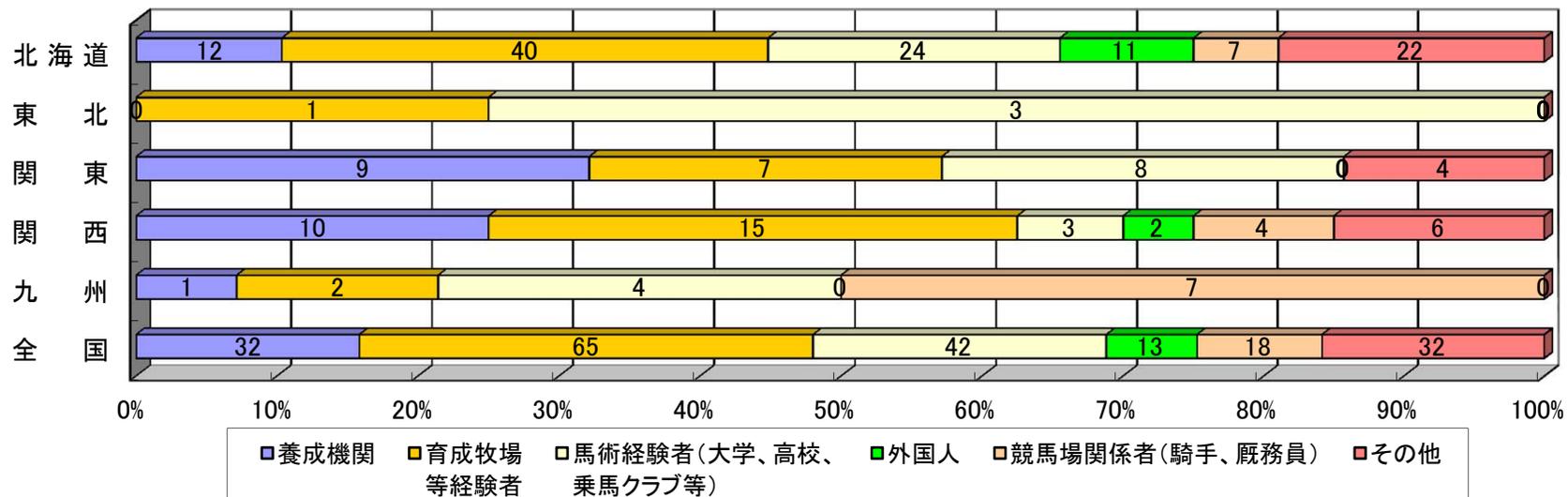
- 育成牧場全体(116牧場回答)の従業員数は、2,356人(116牧場)、1牧場平均20.3人である。
- 地域別1牧場平均従業員数は、北海道地域の牧場の23.6人が最も多い。
- 外国人従業員は、全体で80人であった。
- 1騎乗者取扱平均頭数は、6.5頭『7,499頭「6.飼養頭数[育成馬(1～3歳馬)+競走馬]」/1,151人』であった。
- 従業員数の規模別牧場数は、「5人～10人未満規模」の牧場が最も多く32牧場(27.6%)である。

### (3)－①採用した騎乗者及びきゅう務作業者の経歴(地区別)

(平成21年4月1日～平成22年3月31日の1年間)

地区	養成機関	育成牧場等経験者	馬術経験者 (大学、高校、 乗馬クラブ等)	外国人	競馬場関係者 (騎手、厩務員)	その他	合計	回答 牧場数	1牧場当たり の採用人数
北海道	12	40	24	11	7	22	116	39	3.0
東北	0	1	3	0	0	0	4	2	2.0
関東	9	7	8	0	0	4	28	12	2.3
関西	10	15	3	2	4	6	40	9	4.4
九州	1	2	4	0	7	0	14	7	2.0
全国	32	65	42	13	18	32	202	69	2.9
%	15.8%	32.2%	20.8%	6.4%	8.9%	15.8%	100.0%		

騎乗者及びきゅう務作業者の経歴(地区別)



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分について的人数である。

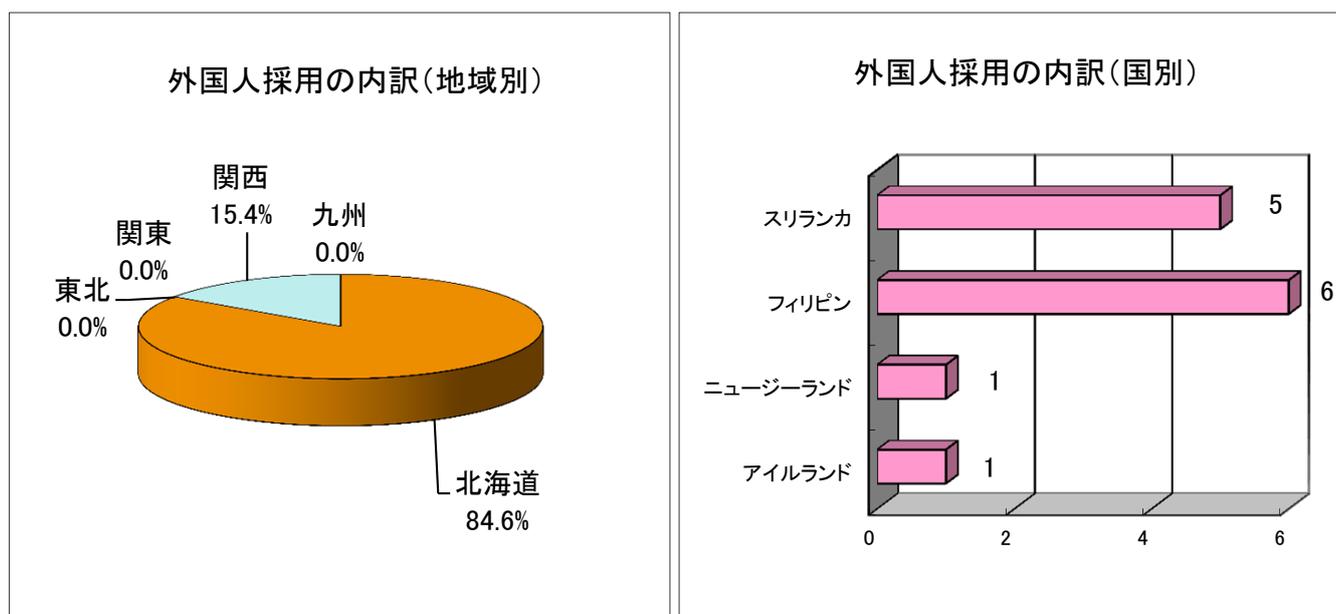
(まとめ)

1. 1牧場当たりの採用人数(1年間)は、全国平均で2.9人であった。
2. 採用経歴では、「育成牧場等経験者」が最も多く65名(32.2%)、次が「馬術経験者」の42名(20.8%)の採用であった。
3. 「外国人」の採用は、全体で13名であった。そのなかで北海道が11名(84.6%)を占めている。

(3)－②外国人採用の内訳  
(平成21年4月1日～平成22年3月31日の1年間)

区 分		合 計	北海道	東北	関東	関西	九州	回 答 牧 場 数
EU圏	アイルランド	1	1					1
オセアニア	ニュージーランド	1	1					1
アジア	フィリピン	6	6					4
	スリランカ	5	3			2		2
	小計	11	9			2		
計		13	11	0	0	2	0	6

注1)複数回答なので、回答牧場数とは一致しない。

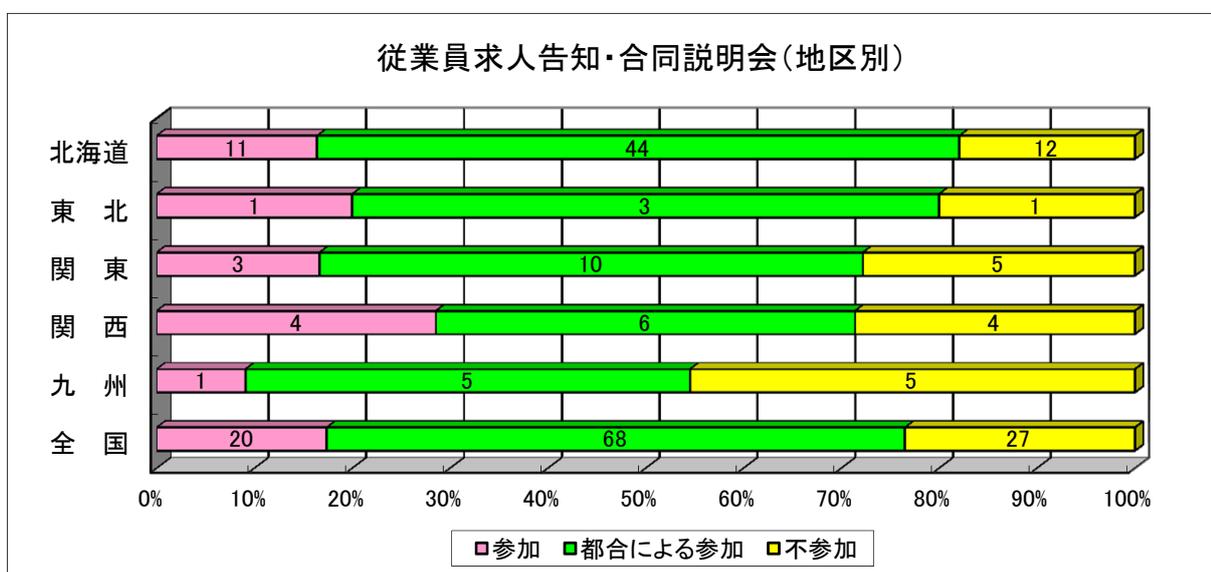


(まとめ)

- 外国人採用(1年間)は全体で6牧場13名であり、そのうち北海道地域が11名(84.6%)であった。
- 国籍は、人数的に、フィリピン、スリランカ、アイルランド、ニュージーランドの順になっている。

### (3)－③従業員の人告知・合同説明会(地区別)

地 区	参加	都合による参加	不参加	回答牧場数
北海道	11	44	12	67
東 北	1	3	1	5
関 東	3	10	5	18
関 西	4	6	4	14
九 州	1	5	5	11
全 国	20	68	27	115
%	17.4%	59.1%	23.5%	100.0%



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

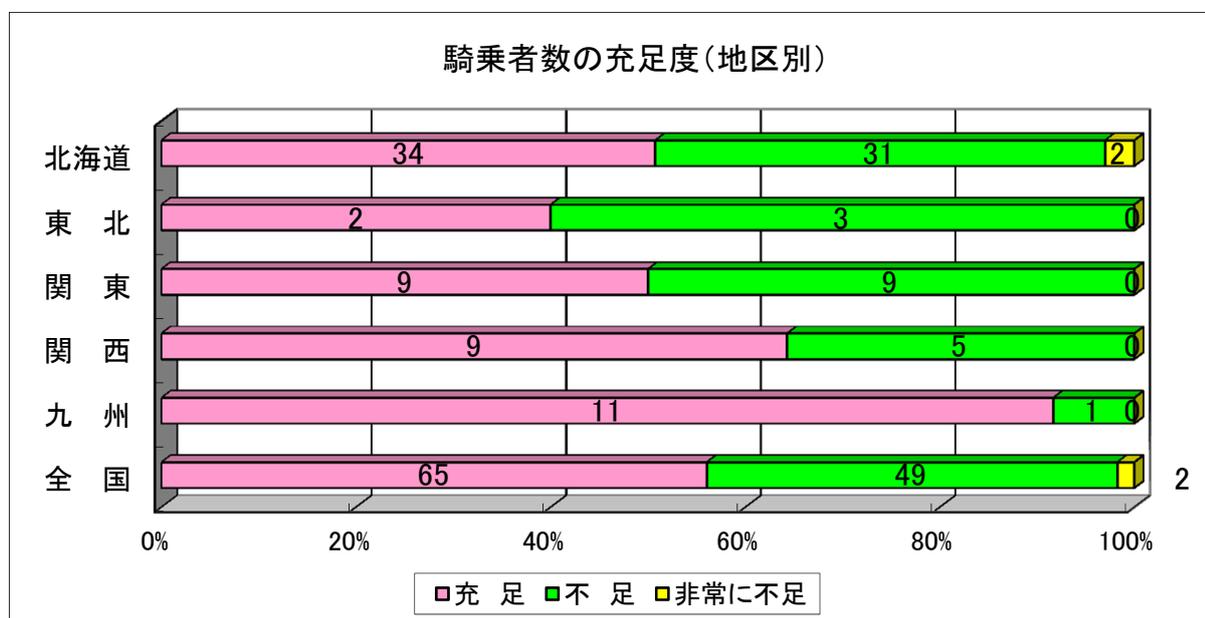
(まとめ)

1. 「参加」と意欲のある牧場は、全国で20牧場(17.4%)、そのうち、北海道地域が11牧場と多い。また、「都合による参加」の牧場は、概ね6割の68牧場であった。
2. 「不参加」の牧場は、概ね1/4弱の27牧場であった。

## 11. 騎乗者

### (1) 騎乗者数の充足度(地区別)

地 区	充 足	不 足	非常に不足	不足人数	回答牧場数
北海道	34	31	2	36	67
東 北	2	3	0	3	5
関 東	9	9	0	11	18
関 西	9	5	0	8	14
九 州	11	1	0	0	12
全 国	65	49	2	58	116
%	56.0%	42.2%	1.7%		100.0%



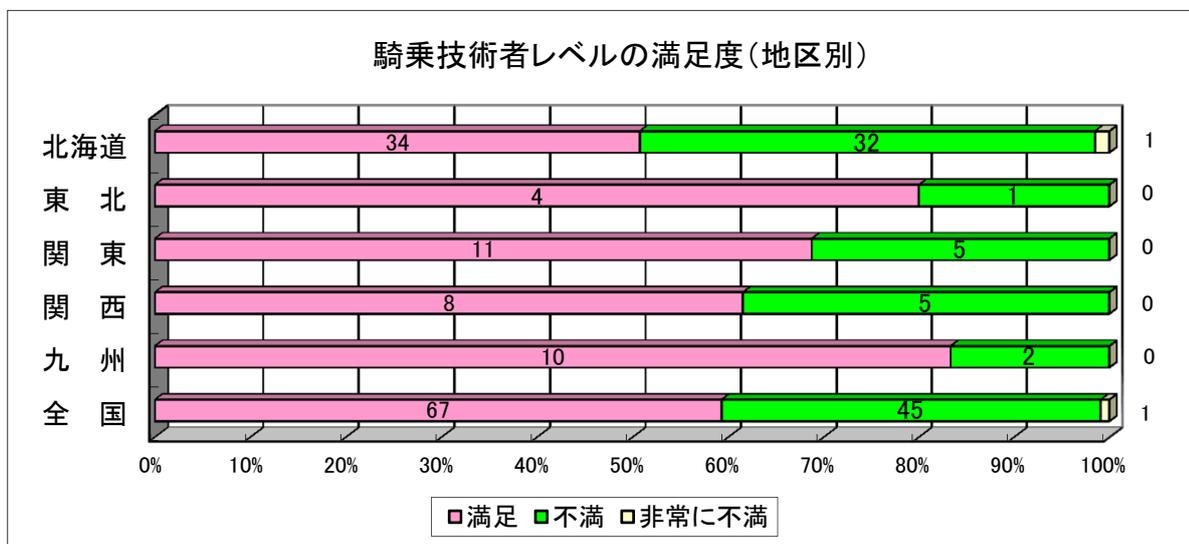
(注) 棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

(まとめ)

1. 1牧場当たりの不足人数は、全国平均で2.2人(58人/26回答牧場)であった。
2. 「充足」を感じる牧場は、65牧場(56.0%)であった。
3. 全国の不足人数58名のうち、北海道地域が36名(62.1%)を占めている。

## (2) 騎乗技術者レベルの満足度(地区別)

地 区	満足	不満	非常に不満	回答牧場数
北海道	34	32	1	67
東 北	4	1	0	5
関 東	11	5	0	16
関 西	8	5	0	13
九 州	10	2	0	12
全 国	67	45	1	113
%	59.3%	39.8%	0.9%	100.0%



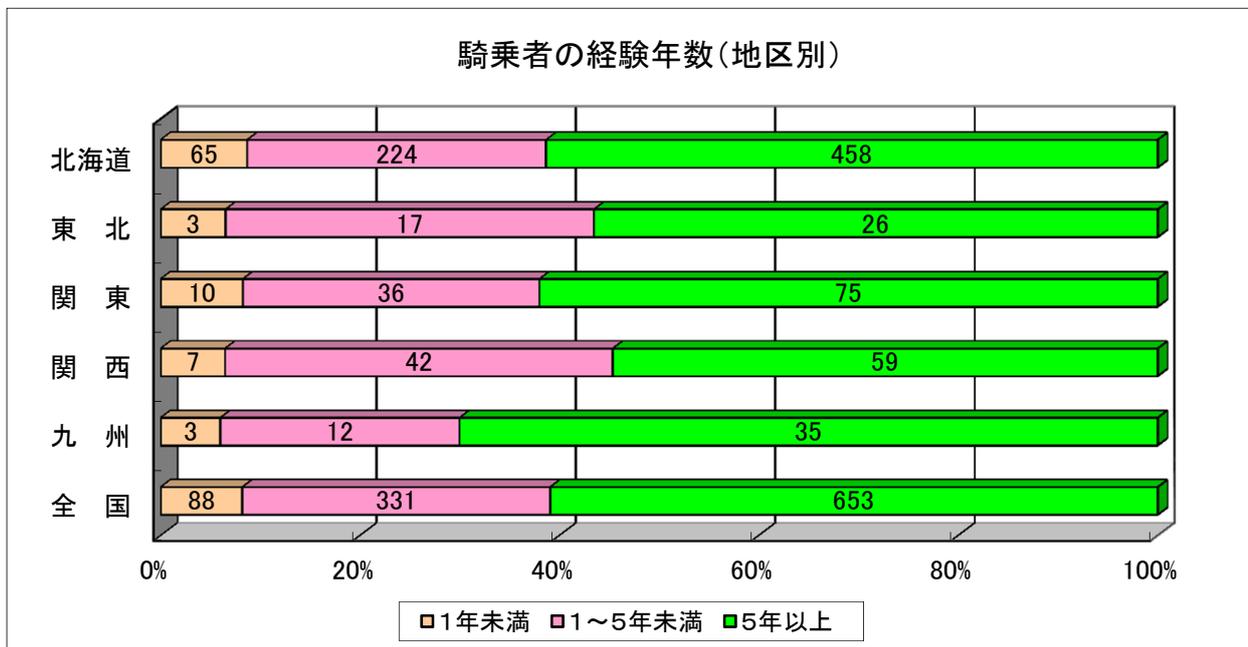
(まとめ)

1. 「満足」は、全国で67牧場(59.3%)、そのうち、北海道地域が34牧場と多い。
2. 「非常に不満」と感じている牧場が、1牧場(北海道)あった。

### (3) 騎乗者の経験年数(地区別)

地 区	1年未満	1～5年未満	5年以上	合 計	回答牧場数
北海道	65	224	458	747	65
東 北	3	17	26	46	5
関 東	10	36	75	121	17
関 西	7	42	59	108	12
九 州	3	12	35	50	12
全 国	88	331	653	1,072	111
%	8.2%	30.9%	60.9%	100.0%	

注) 調教管理者の取扱い関係で、10(1)の地域別従業員数の騎乗者欄の数値1,151人とは一致しない。



(注) 棒グラフの数字は、それぞれの区分についての人数である。

(まとめ)

騎乗者経験年数は、「5年以上」経験者が全国平均で60.9%を占める。

## 12. 調教業務

### (1) 1歳せり馴致の調教

- ① せり馴致を行っている牧場は、59牧場(49.2%)である。
- ② 特に、北海道地域では47牧場(79.7%)と多い。

区分	行っている	調教内容					行っていない	記入なし
		引き馬	ウォーキングマシン	調馬索	装削蹄	検温		
北海道	47	45	43	26	41	36	22	0
東北	2	1	1	1	1	1	4	0
関東	3	3	3	3	3	3	13	2
関西	0	0	0	0	0	0	10	4
九州	7	7	1	5	4	4	5	1
全国	59	56	48	35	49	44	54	7
構成比	49.2%	94.9%	81.4%	59.3%	83.1%	74.6%	45.0%	5.8%
牧場数	=59/120牧場	=56/59牧場	=48/59牧場	=35/59牧場	=49/59牧場	=44/59牧場	=54/120牧場	=7/120牧場

注1. 「せり馴致の有無」に関する構成比欄は、120牧場に対する割合である。

注2. 「調教内容」に関する構成比は、実施牧場59牧場に対する割合である。

### (2) 若馬の騎乗馴致

- ① 騎乗馴致を行っている牧場は、94牧場(78.3%)である。
- ② 特に、北海道地域では63牧場(67.0%)と多い。

区分	行っている	馴致開始から終了まで(ハミ馴致からグループ調教まで)の日数								行っていない	記入なし
		10日まで	20日まで	30日まで	40日まで	50日まで	60日まで	60日超	不明		
北海道	63	15	24	15		1	2	1	5	6	0
東北	6		3	1		1			1	0	0
関東	10		4	5			1			7	1
関西	3			1			1	1		9	2
九州	12	4	3	3			2			0	1
全国	94	19	34	25	0	2	6	2	6	22	4
構成比	78.3%	20.2%	36.2%	26.6%	0.0%	2.1%	6.4%	2.1%	6.4%	18.3%	3.3%
牧場数	=94/120牧場	=19/94牧場	=34/94牧場	=25/94牧場	=0/94牧場	=2/94牧場	=6/94牧場	=2/94牧場	=6/94牧場	=22/120牧場	=4/120牧場

注1. 「騎乗馴致の有無」に関する構成比欄は、120牧場に対する割合である。

注2. 「馴致開始から終了までの日数」に関する構成比は、実施牧場94牧場に対する割合である。

### (3) ピンフッキング用の仕入れ

- ① ピンフッキング用の仕入れを行っている牧場は、9牧場(7.5%)である。
- ② 特に、北海道地域では8牧場(88.9%)と多い。
- ③ ピンフッキング用の仕入れ頭数は、全体で29頭(1牧場当たり平均頭数:3.2頭)、そのうち市場で購入した頭数は17頭(58.6%)であった。

区分	行っている	牧場・頭数内訳							行っていない	記入なし	
		5頭まで	頭数(そのうち 市場購買頭数)	10頭まで	頭数(そのうち 市場購買頭数)	15頭まで	頭数(そのうち 市場購買頭数)	頭数計			左記のうち 市場購買 頭数計
北海道	8	7	16(4)			1	12(12)	28	16	57	4
東北	0									6	0
関東	1	1	1(1)					1	1	15	2
関西	0									10	4
九州	0									7	6
全国	9	8	17(5)			1	12(12)	29	17	95	16
構成比	7.5%	88.9%				11.1%		3.2頭	58.6%	79.2%	13.3%
牧場数	=9/120牧場	=8/9牧場				=1/9牧場		(1牧場当たり)	=17/29頭	=95/120牧場	=16/120牧場

注1. 「ピンフッキング用の仕入れの有無」に関する構成比欄は、120牧場に対する割合である。

注2. 「牧場・頭数内訳」に関する構成比は、実施牧場9牧場に対する割合である。

### (4) トレーニングセールに上場する馬の調教

- ① トレーニングセールに上場する馬の調教を行っている牧場は、43牧場(35.8%)である。
- ② 特に、北海道地域では35牧場(81.4%)と多い。
- ③ トレーニングセールに上場する馬の調教頭数は、全体で29頭であり、1牧場当たり平均頭数は4.1頭であった。

区分	行っている	牧場・頭数内訳						行っていない	記入なし
		5頭まで	10頭まで	15頭まで	20頭まで	不明	頭数計		
北海道	35	25	5	2	1	2	158	32	2
東北	1	1					1	5	0
関東	2	2					5	14	2
関西	0							11	3
九州	5	5					11	8	0
全国	43	33	5	2	1	2	175	70	7
構成比	35.8%	76.7%	11.6%	4.7%	2.3%	4.7%	4.1頭	58.3%	5.8%
牧場数	=43/120牧場	=33/43牧場	=5/43牧場	=2/43牧場	=1/43牧場	=2/43牧場	(1牧場当たり)	=70/120牧場	=7/120牧場

注1. 「トレーニングセールに上場する馬の調教の有無」に関する構成比欄は、120牧場に対する割合である。

注2. 「牧場・頭数内訳」に関する構成比は、実施牧場43牧場に対する割合である。

## (5) トレーニング目標

注. 複数項目に記入されていた場合は、「より高度の目標」をカウントした。

### 1) 育成馬

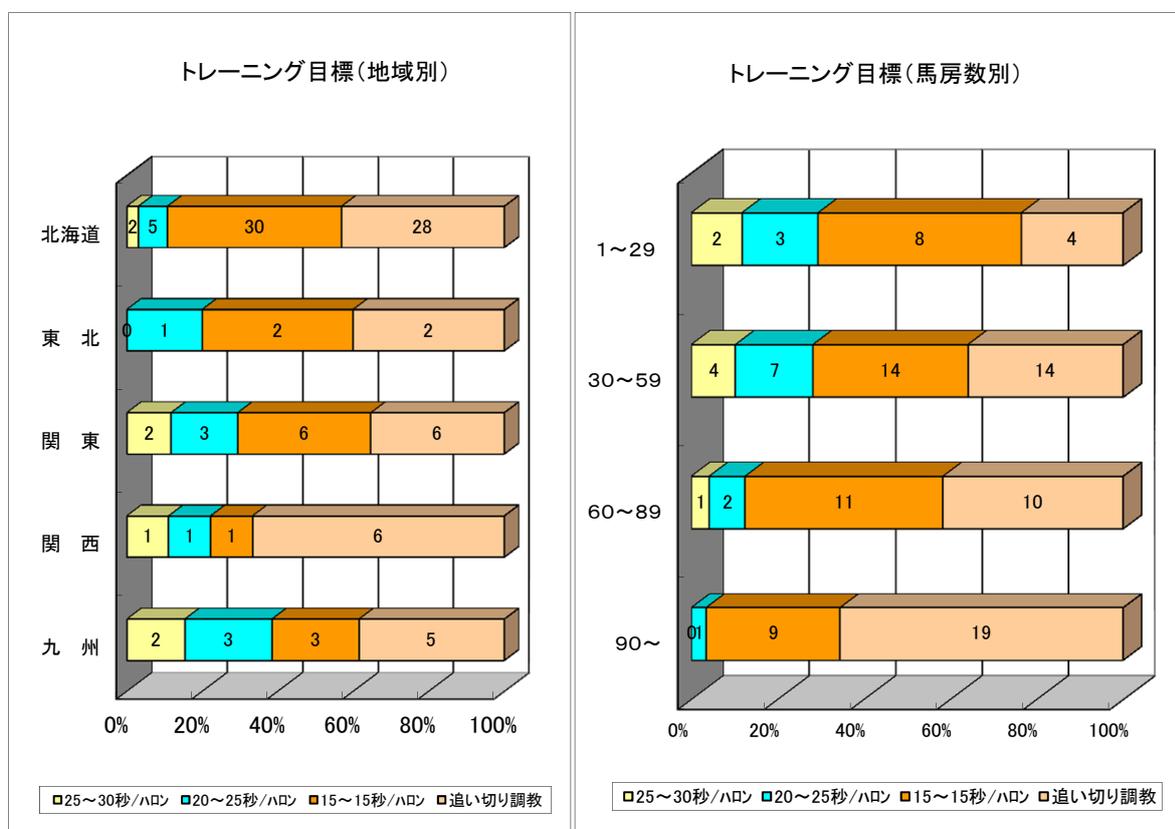
- ① トレーニング目標は、「競走直前の仕上げまで」43.1%、「新馬調教仕上げまで」38.5%と高度の目標を設定している。
- ② 大規模になるほど高度の目標としており、90馬房以上層の牧場は65.5%が「競走直前の仕上げまで」行っている。

区分	軽い駆け足まで	中程度の駆け足まで	新馬調教仕上げまで	競走直前の仕上げまで	計	記入なし
	25～30秒/ハロン	20～25秒/ハロン	15～15秒/ハロン	追い切り調教		
北海道	2	5	30	28	65	4
東北	0	1	2	2	5	1
関東	2	3	6	6	17	1
関西	1	1	1	6	9	5
九州	2	3	3	5	13	0
全国	7	13	42	47	109	11
構成比	6.4%	11.9%	38.5%	43.1%	100.0%	

注. 構成比欄は、109牧場に対する割合である。

区分	軽い駆け足まで	中程度の駆け足まで	新馬調教仕上げまで	競走直前の仕上げまで	計	記入なし
	25～30秒/ハロン	20～25秒/ハロン	15～15秒/ハロン	追い切り調教		
1～29	2	3	8	4	17	1
30～59	4	7	14	14	39	6
60～89	1	2	11	10	24	2
90～	0	1	9	19	29	2
合計	7	13	42	47	109	11
構成比	6.4%	11.9%	38.5%	43.1%	100.0%	

注. 構成比欄は、109牧場に対する割合である。



(注) 棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

## 2) 競走馬

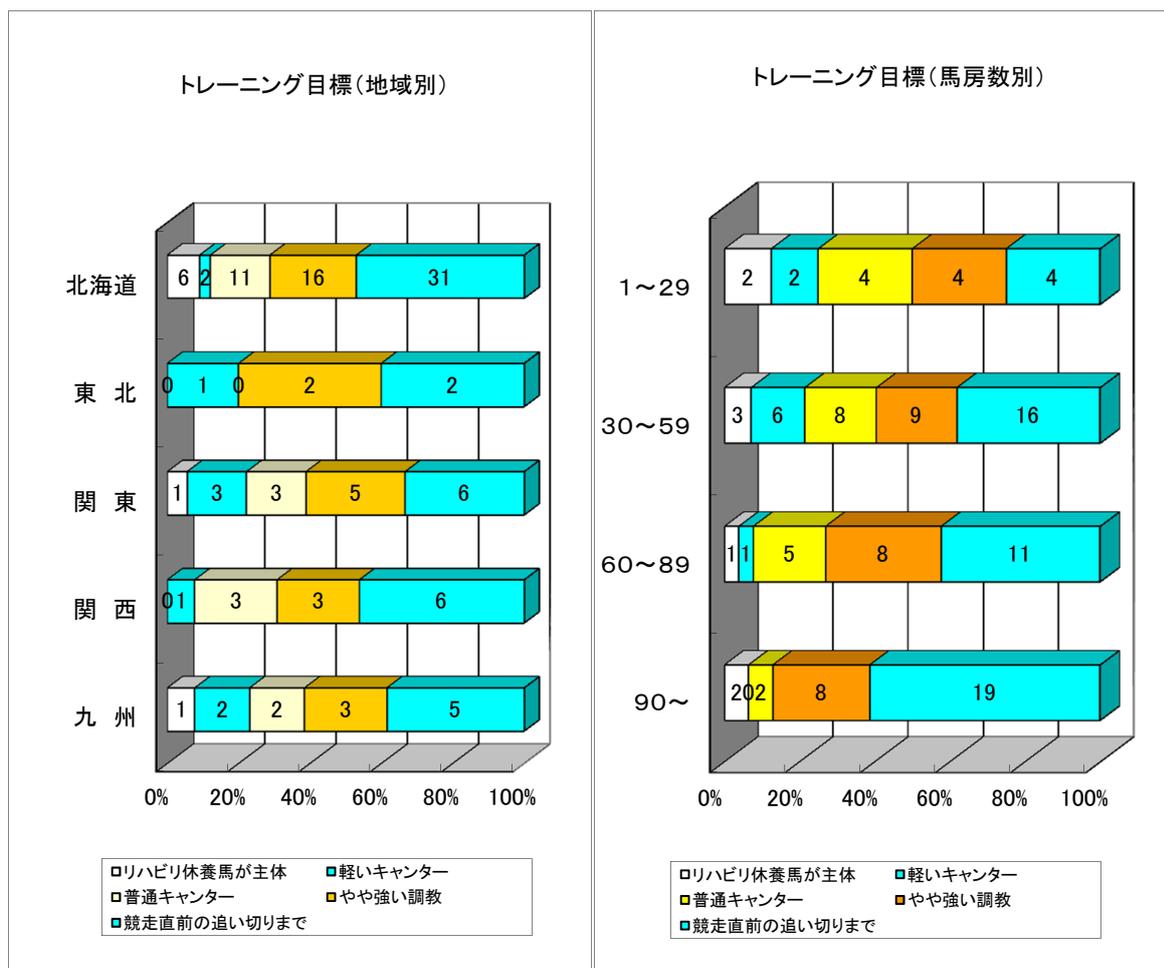
- ① トレーニング目標は、「競走直前の仕上げまで」43.5%、「やや強い調教(15-15秒)」25.2%と高度の目標を設定している。
- ② 大規模になるほど高度の目標としており、90馬房以上層の牧場は61.3%(19/31牧場)が「競走直前の仕上げまで」行っている。
- ③ 「リハビリ休養馬が主体」とする牧場は、全体の7.0%(8/115牧場)に過ぎない。

区分	リハビリ休養馬が主体	軽いキャンター	普通キャンター	やや強い調教(15~15秒/ハロン)	競走直前の追い切りまで	計	記入なし
北海道	6	2	11	16	31	66	3
東北	0	1	0	2	2	5	1
関東	1	3	3	5	6	18	0
関西	0	1	3	3	6	13	1
九州	1	2	2	3	5	13	0
全国	8	9	19	29	50	115	5
構成比	7.0%	7.8%	16.5%	25.2%	43.5%	100.0%	

注. 構成比欄は、115牧場に対する割合である。

区分	リハビリ休養馬が主体	軽いキャンター	普通キャンター	やや強い調教(15~15秒/ハロン)	競走直前の追い切りまで	計	記入なし
1~29	2	2	4	4	4	16	2
30~59	3	6	8	9	16	42	3
60~89	1	1	5	8	11	26	0
90~	2	0	2	8	19	31	0
合計	8	9	19	29	50	115	5
構成比	7.0%	7.8%	16.5%	25.2%	43.5%	100.0%	

注. 構成比欄は、115牧場に対する割合である。



(注)棒グラフの数字は、それぞれの区分についての牧場数である。

### 13. 預託料金（装削蹄料金、治療代等を除く基本料金）

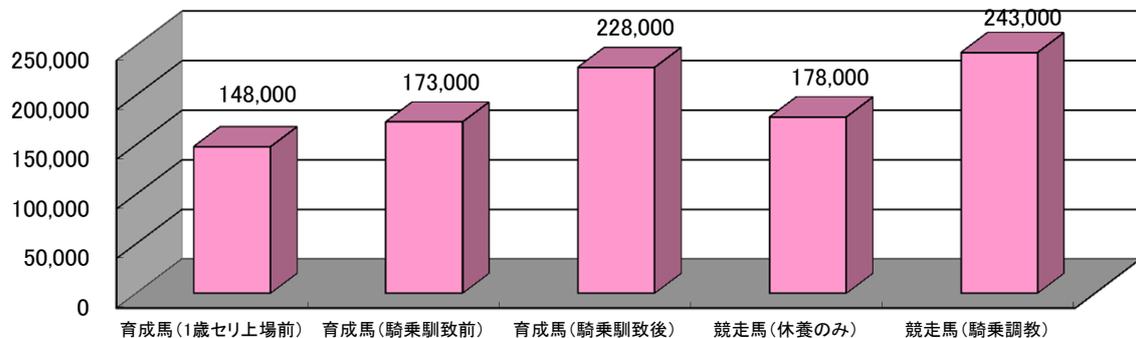
- ① 「中央競馬向け」馬預託料は、育成馬（1歳セリ上場前）が148千円/月、育成馬（騎乗馴致前）が173千円/月、育成馬（騎乗馴致後）228千円/月でした。また、競走馬については、「休養のみ」が178千円/月、「騎乗調教」が243千円/月でした。
- ② 「地方競馬向け」馬については、「中央競馬向け」馬の約9割弱の水準でありました。
- ③ 牧場の規模別（馬房数別）にみると、大規模になれば預託料金が高くなる傾向がみられます。

#### (1) 地域別預託料金

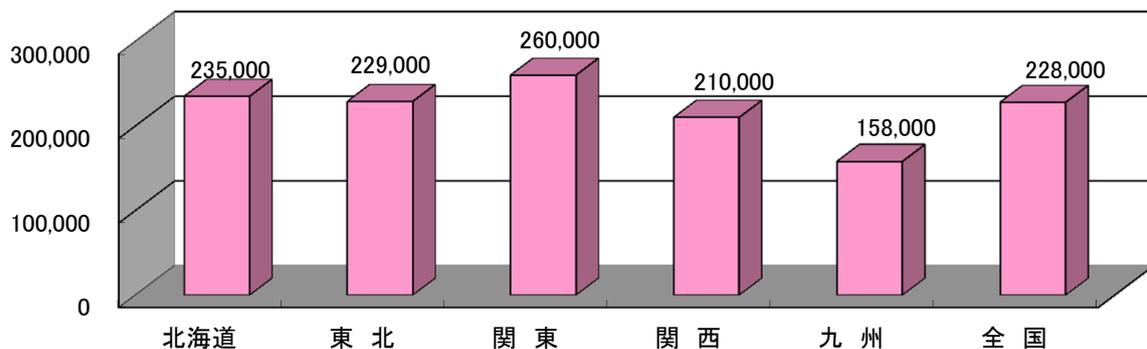
（単位：件、千円/月）

区分	預託料(中央競馬)										預託料(地方競馬)									
	育成馬					現役競走馬					育成馬					現役競走馬				
	1歳セリ上場前		騎乗馴致前		騎乗馴致後		休養のみ		騎乗調教		1歳セリ上場前		騎乗馴致前		騎乗馴致後		休養のみ		騎乗調教	
	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均
北海道	34	157	55	174	56	235	49	174	53	241	22	151	30	168	32	213	27	163	31	219
東北	1	90	5	154	5	229	4	174	4	262	2	85	4	142	4	164	3	139	3	195
関東	0	0	4	248	5	260	12	195	13	263	0	0	4	220	5	228	8	183	9	237
関西	0	0	1	210	1	210	11	224	11	273	0	0	0	0	0	0	1	221	2	185
九州	4	85	8	136	8	158	9	120	9	175	3	78	7	120	7	136	7	108	6	142
全国	39	148	73	173	75	228	85	178	90	243	27	138	45	163	48	199	46	158	51	210

預託料金(中央競馬・月額)



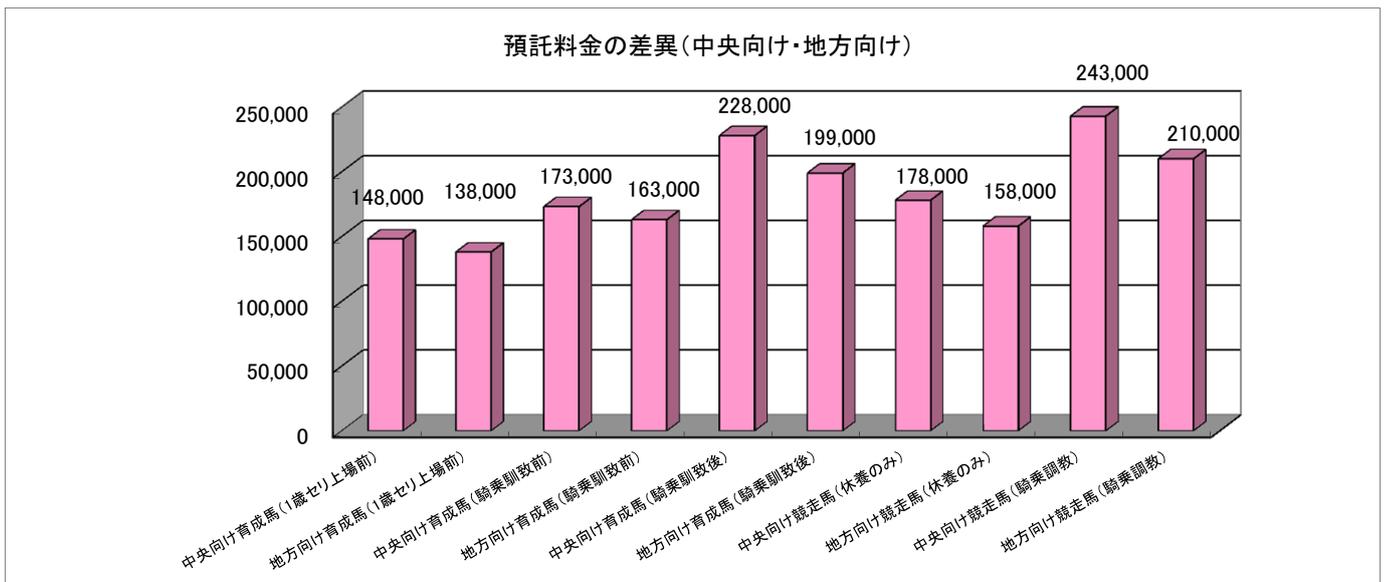
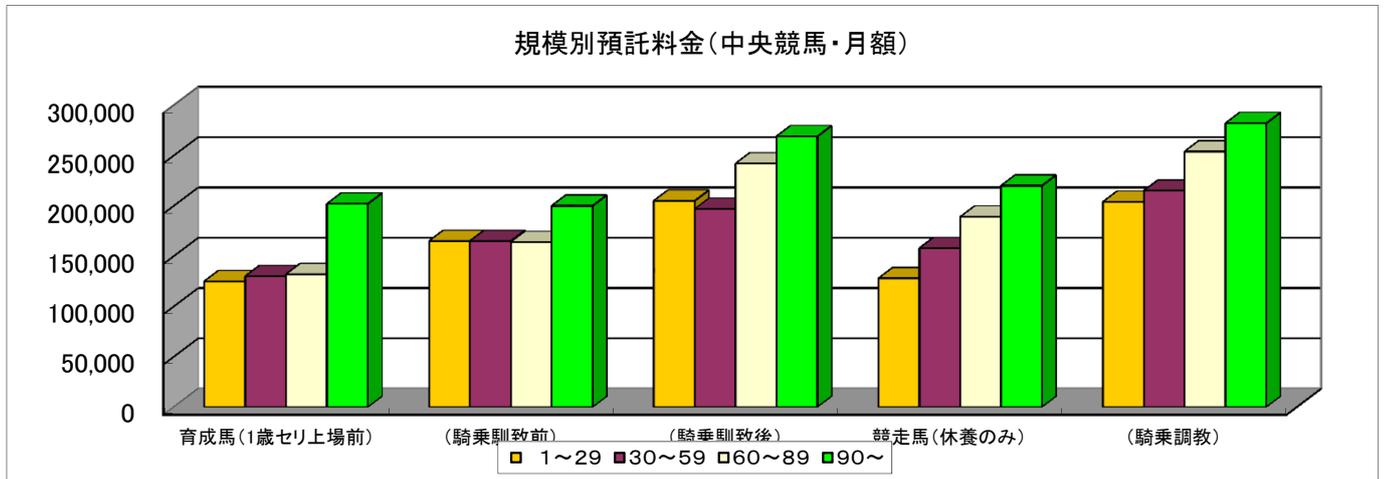
預託料金(育成馬・騎乗馴致後)



## (2) 規模別(馬房数別)預託料金

(単位: 件、千円/月)

区分	預託料(中央競馬)										預託料(地方競馬)									
	育成馬					現役競走馬					育成馬					現役競走馬				
	1歳セリ 上場前		騎乗馴致前		騎乗馴致後		休養のみ		騎乗調教		1歳セリ 上場前		騎乗馴致前		騎乗馴致後		休養のみ		騎乗調教	
	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均
1~29	6	125	9	165	9	205	9	128	10	204	3	102	5	124	6	150	5	95	7	178
30~59	17	130	29	165	28	197	35	158	33	215	9	111	18	154	18	178	19	144	18	188
60~89	6	132	17	164	18	242	19	189	20	254	7	134	9	144	10	206	9	161	10	216
90~	10	202	18	200	20	269	22	220	27	282	8	185	13	204	14	243	13	200	16	246
合計	39	148	73	173	75	228	85	178	90	243	27	138	45	163	48	199	46	158	51	210



### (3) その他料金

- ① 預託料金を預託者毎に変えずに、定額としている牧場の割合は55.8%であった。
- ② 預託料金以外に、経費として徴収している項目で、  
 ア、高い割合で徴収している項目は、  
 削蹄料金(95.6%)、治療代(93.0%)、定期検診代(86.8%)  
 イ、低い割合の項目は、  
 保険料(14.9%)、馬具(22.8%)であった。

(設問1) 預託料金は、個別に違う場合がありますか？

区 分	回答牧場	全て同一料金	異なる場合あり
牧場数	113	63	50
%	100.0	55.8	44.2

(設問2) 預託料金以外に、徴収している経費は何ですか？

回答牧場 114牧場

経費	徴収している 牧場	%
削蹄料金	109	95.6
治療代	106	93.0
薬代	65	57.0
駆虫薬	90	78.9
馬具	26	22.8
保険料	17	14.9
馬輸送費	83	72.8
定期検診代	99	86.8

注) %欄は114牧場に対する割合である。

(設問3) その他の料金設定はありますか？

回答例

障害調教	1日 1,000円増
プール調教馬	1,500 円/日
温浴料	1,000 円/日
栄養剤等特殊飼料費	3件
輸入牧草代	
BTC利用料	